GUIDE BOOK 2024

TOKYO DENTAL COLLEGE

東京歯科大学
TOKYO DENTAL COLLEGE

TOKYO DENTAL COLLEGE

血脇記念ホール

創立120周年記念事業として、メインキャンパスの東京・水道橋移転に伴い新血脇記念ホールが建設されました。収容人数350人を誇るホールは、客席や壁面、天井など細部に至るまでこだわりを持って建造され、木の温かみと上質な素材に包まれたホールです。大学の行事、国際会議から講演会、演劇やコンサートまで幅広く活用でき、スケールの大きな催事を実現します。このホールがある新館は本学の活気を象徴する場所のひとつです。

Contents

「伝統」と「革新」 2
理事長・学長メッセージ 4
大学年表 6

01 教育
「人間教育」を柱に時代の要請に挑む 8
ポリシー 10
教育改革 13
カリキュラムマップ 16
特色ある学習支援 18
大学院歯学研究科 22
講座・研究室および研究内容一覧 24
東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科・専攻科 26
図書館 29

02 研究
研究 30
口腔科学研究センター 32

03 医療施設
医療施設 34
水道橋病院 36
市川総合病院 38
千葉歯科医療センター 40

04 学術交流
学術交流 42
東京歯科大学学会 44
東京歯科大学同窓会 44
出版物 45

組織 46
教授一覧 48
学生・卒業生数 51
アクセスガイド 52

建学者
血脇 守之助

『伝統』と『革新』

「歯科医師たる前に人間たれ」を核に時代とともに歩む

本学130年にわたる伝統の根幹をなすのは、「歯科医師たる前に人間たれ」
という血脇守之助先生（本学建学者）の言葉です。
歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある
歯科医師の育成を本学の使命として継承してきました。
また、患者の全身状態を十分に把握したうえで
診断を行い、歯科治療に臨むことのできる歯科医師、
多職種と連携できる歯科医師の育成という
新しい問題にもいち早く取り組んでまいりました。
本学では、自立した優秀な学生を確保し、勉学への意欲を喚起する環境や
独自の魅力あるプログラムによって国民から信頼される
優秀な歯科医師を世に送り出すことを念頭に、
時に改革もいとわず、時代とともに歩む歯学教育を行ってきました。

理事長
井出 吉信
昭和47年 東京歯科大学卒

東京歯科大学の歴史は、1890 年髙山紀齋先生によって開かれた、日本初の歯科医師養成機関である髙山歯科医学院に遡ります。創立者の髙山紀齋先生は、6 年間の米国修行の後、米国歯科医術開業試験に合格し、帰国後に高度な歯科医学の知識と臨床技術を併せ持つ歯科医師の育成を目指しました。その後、学院の経営を委譲された血脇守之助先生は我が国における歯科の近代化、体制整備の面において先導者でありました。「歯科医師たる前に人間たれ」という教えは、歯科医師としての知識や技術のみならず、高い倫理観や人間性を持つ、品性ある歯科医師の育成を本学の使命とする建学の精神として、今日に至るまで脈々と受け継がれております。

2012 年に千葉キャンパスより建学の地である水道橋キャンパスに回帰し、最新鋭の設備を備え、きめ細やかな教育を行っております。また、教育のみならず臨床と研究を通して、国民の健康増進により一層貢献していきます。130 年を超える長い歴史の中で作り上げられた伝統を守りつつ、これからも更に発展と挑戦を続けていきます。新しい時代を切り拓く、高い志を持った学生諸君を心から歓迎します。

学長
一戸 達也
昭和56年 東京歯科大学卒

超高齢社会の現在、歯科医師は歯科医院の中で働いているだけではその役割を十二分に果たすことはできません。これからのわが国を支える地域包括ケアシステムの中で、多職種と連携し、共通言語で会話し、口腔の健康を通じて全身の健康を提供できる存在でなければなりません。十分な栄養摂取ができないことに起因したサルコペニアやフレイルに継発する誤嚥性肺炎の予防と、歯周病の改善による糖尿病、虚血性心疾患、脳血管障害の悪化予防などの場面において、歯科医師の果たすべき役割は極めて大きくなっています。本学は、都市型歯科病院である水道橋病院、医科系総合病院である市川総合病院、地域密着型歯科診療所である千葉歯科医療センターの 3 医療施設が、それぞれの特徴を活かしながら強く連携する最新鋭の総合的な教育体制を整えています。歯科系職種だけでなく、医師や看護師など医療系職種も、全教職員が歯科医学教育に携わっており、これが他学にはみられない本学の強みです。このような特色ある本学の教育環境の中で、最先端の歯科医学を一緒に学びませんか。

1890年から脈々と続く歯学教育・研究の本流

東京歯科大学

【大学年表】

1890～ 髙山歯科医学院時代

日本社会および歯科界が前近代的状況であったなか、髙山紀齋が米国留学で得た高邁な理想をもとに学制と教授科目が整えられ、東京歯科医学院の礎を築きました。

1900～ 東京歯科医学院・東京歯科医学専門学校時代

学院を継承した血脇守之助は、以来、着々と学院を発展させました。本学発展の基礎を築き歯科界に盛名をはせるとともに、野口英世、奥村鶴吉、佐藤運雄、花澤 鼎ら優れた人材を世に送り出してきました。

1945～ 東京歯科大学時代

創設以来の歴史と伝統を継承しながらも、最先端の教育と医療をもって歯科医学・歯科医療の発展に貢献するよう、時代の流れを見据えて進化を続けています。

明治29年1月 1890	東京歯科大学御殿町グラウンド完成
明治32年12月 1899	創立100周年記念式典挙行
明治33年2月 1900	東京歯科大学歯科衛生士専門学校を廃止し、東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校を東京歯科大学歯科衛生士専門学校と改称
明治34年2月 1901	東京歯科大学水道橋病院新病院開院
明治40年9月 1907	新水道橋校舎（TDCビル）竣工
明治41年9月 1908	東京歯科大学歯科衛生士専門学校千葉校開校
大正9年3月 1920	東京歯科大学市川病院を東京歯科大学市川総合病院と改称
大正14年11月 1929	東京歯科大学千葉病院開院
昭和21年7月 1946	東京歯科大学千葉校舎開校、東京歯科大学千葉病院開院
昭和21年12月 1946	東京歯科大学病院を東京歯科大学水道橋病院と改称
昭和24年9月 1949	東京歯科大学千葉校舎竣工
昭和24年10月 1949	学校教育法改正により、東京歯科大学歯科衛生士学校が東京歯科大学歯科衛生士専門学校として設置認可（専修学校として認可）
昭和26年3月 1951	東京歯科大学大学院開設
昭和27年2月 1952	東京歯科大学発足（進学課程2年・専門課程4年）
昭和30年4月 1955	学校教育法により東京歯科大学（新制）設置認可
昭和33年4月 1958	財団法人から学校法人への組織変更認可
昭和51年12月 1976	東京歯科大学病院開設
昭和56年7月 1981	東京歯科大学歯科衛生士学校開校
昭和56年9月 1981	東京歯科大学市川病院開院
昭和62年4月 1987	東京歯科大学歯科衛生士専門学校創立50周年記念式典挙行
平成元年4月 1989	東京歯科大学市川総合病院創立50周年記念式典挙行
平成2年3月 1990	東京歯科大学歯科衛生士専門学校廃止認可
平成2年4月 1990	東京歯科大学すがの訪問看護ステーション開設
平成2年10月 1990	東京歯科大学千葉病院閉院
平成2年10月 1990	東京歯科大学短期大学開学
平成3年3月 1991	東京歯科大学水道橋病院リニューアル工事竣工
平成4年6月 1992	東京歯科大学水道橋校舎本館西棟竣工
平成6年5月 1994	東京歯科大学水道橋校舎新館開校
平成8年10月 1996	東京歯科大学水道橋校舎本館開校
平成8年12月 1996	東京歯科大学さいかち坂校舎開校
平成11年9月 1999	創立120周年記念式典挙行
平成12年1月 2000	東京歯科大学口腔がんセンター開設
平成13年7月 2001	歯科医学教育開発センター開設
平成14年3月 2002	市川宿舎、市川総合病院北病棟竣工
平成17年3月 2005	市川総合病院リプロダクションセンター・放射線棟開所
平成17年10月 2005	市川総合病院角膜センター・アイバンクビル竣工
平成18年4月 2006	東京歯科大学口腔科学研究センター脳科学研究施設開設
平成22年5月 2010	東京歯科大学市川総合病院創立50周年記念式典挙行
平成24年4月 2012	東京歯科大学口腔科学研究センター開設
平成25年4月 2013	市川総合病院宿舎、保育所、附属棟竣工
平成25年9月 2013	東京歯科大学市川総合病院移転新築竣工、開院（7月）
平成28年3月 2016	東京歯科大学市川総合病院歯科外来棟竣工
平成29年3月 2017	東京歯科大学千葉歯科医療センター新センター開設
平成29年4月 2017	東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成30年3月 2018	東京歯科大学歯科衛生士専門学校廃止認可
平成30年4月 2018	東京歯科大学千葉病院を東京歯科大学千葉歯科医療センターと改称
令和元年6月 2019	東京歯科大学すがの訪問看護ステーション開設
令和元年7月 2019	東京歯科大学千葉病院閉院
令和2年4月 2020	東京歯科大学短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
令和3年3月 2021	東京歯科大学歯科医療センター新センター開設
令和4年10月 2022	東京歯科大学市川総合病院歯科外来棟竣工
令和5年9月 2023	東京歯科大学市川総合病院薬物療法室開設

創設者

髙山紀齋

嘉永3年12月12日
岡山県生まれ。
日本最古の歯科医学教育機関である髙山歯科医学院を設立しました。

建学者

血脇守之助

明治3年2月1日
千葉県生まれ。
髙山歯科医学院を継承し発展させました。

血脇守之助と野口英世博士との関係

1896年、19歳で上京した野口清作（後の野口英世博士）を住居から就職まで物心ともに面倒をみたのが、髙山歯科医学院（本学の前身）で学院幹事をしていた建学者の血脇守之助先生でした。
血脇先生は、野口博士の米国留学の渡航費用を工面するなどの支援を続け、世界に飛躍する機会を与えました。

小幡式歯科治療椅子（1875年）

本邦歯科医の鼻祖である小幡英之助先生（1850 ～1909）が創案し、1875年以来愛用した歯科用治療椅子。ご遺族により、1915年2月に寄贈されました。

野口英世・揮毫

1924年、野口英世博士より贈られた扁額。前年の関東大震災により壊滅状態にあった本学（東京歯科医学専門学校）に対し、在米中の野口英世博士が、恩師・血脇守之助校長の悲嘆を少しでも慰めようと、かかる揮毫を贈り、たとえ壊滅的な被害にあっても「高雅で気高い学風は、けっして失われることなく、永遠に続くであろう」と励まされました。

『保歯新論』髙山紀齋著

（上下巻。有新堂。1881年6月25日発刊）

英米の歯科教科書を翻訳するとともに、髙山紀齋先生の先進的な考えに基づいて著述された歯科衛生書。当時の他の医学書と比較しても出色であり、日本の歯科医学に大きなインパクトを与えました。

『髙山歯科医学院講義録』

（全24冊。1888年10月より発行）

学院の講師が原書によって口述したものを科目ごとにまとめ、1890年10月から2年間にわたって毎月、定期的に発行。翻訳主体ですが、わが国初の全科目にわたる本格的教科書として、歯科教育史上に占める意義は大きいものでした。

「人間教育」を柱に時代の要請に挑む

社会のニーズに即応できる歯科医師の育成

今日、社会構造の変貌とともに、歯学・医学教育の在り方が問われています。「全人的医療」や「多様化した医療への対応」「基本的臨床能力の向上」「医療事故防止」などをめざす歯科医学教育は勿論のこと、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年問題に対応できる教育も急務となってきました。

8020運動の成果により天然歯は残っても、高齢患者の多くが何らかの全身疾患を抱えています。また、在宅医療は国民的ニーズともなっています。いうまでもなく歯科医学教育においても全身的なこと、多職種とのチーム医療教育が欠かせない時代となりました。また、相手(患者)が何をしてほしいのか、何を望んでいるかを傾聴する力、コミュニケーション能力も以前にも増して重要です。

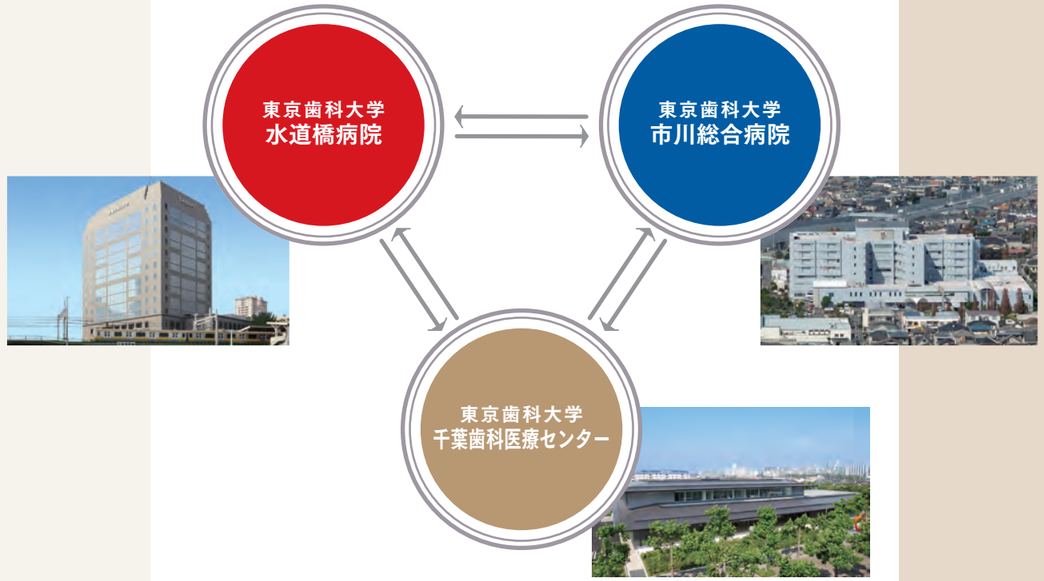
本学ではこのような社会ニーズを達成するための歯学教育・研究の充実はもちろんのこと、歯科医学教育開発センターを設置し、医科歯科連携をより一層強化するために慶應義塾大学医学部とも協定を結びました。この、より高度な医科歯科連携機能を活用し、今後、訪問歯科診療に対応ができる歯科医師や歯科衛生士の育成のため、市川総合病院に「東京歯科大学すがの訪問看護ステーション」を設置しました。このように看護や栄養学の分野でも積極的な連携が必要とされるため、それらの学部を持つ他大学や研究医療機関との共同プログラムを通して、教育の更なる充実を図っています。

また、海外協定校で短期研修を行う、Elective Study Program などを通し、国際性豊かな歯科医師の育成にも取り組んでいます。

3つの医療施設を持つ強みを生かした独自の教育環境

東京歯科大学は「日本で唯一の総合病院を持つ歯科大学」として、3つのキャンパスそれぞれに特徴の異なる医療施設を設置し、教育・診療・研究に活かしています。「水道橋病院」では各診療科で実習を行い、先端医療も含め様々な治療を学ぶことができます。「市川総合病院」は、医科歯科連携を直接学ぶことができる貴重な場です。ここではスキルスラボを通し学生・研修医・看護師・リハビリ関係の職種がともに学んでいます。また、同口腔がんセンターでは歯科・耳鼻科・形成外科との連携による一貫性のある医療が行われています。「千葉歯科医療センター」は、2021年3月、新しいセンターを開設しました。地域に密着した歯科医療を提供するとともに、より高度な歯科医学教育の役割を担っています。

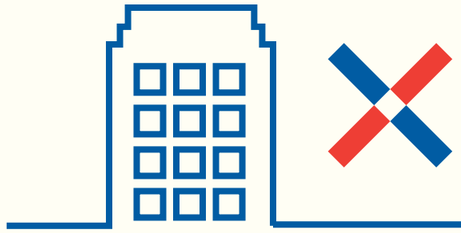
この3つの医療施設、それぞれの特徴を活かした教育こそが、他大学にはみられない本学の強みであり、医科歯科を融合させた教育分野において、先導的役割を果たしています。



創立130周年を迎えて

本学は2020年に創立130周年を迎えました。2013年に建学の地である水道橋に全ての校舎の移転が完了し、都心のメインキャンパスとして、より充実した教育環境を整えました。他大学や研究施設との交流、情報交換も以前に増して盛んになっています。今後も、この長い歴史の中で培ってきた教育・診療・研究のノウハウを、次世代の歯科界を担う高い志を持った人材に引き継ぐという責任を果たしていきたいと考えています。

人間力のある　人材を育てる。



- 知識・技能
- 高い倫理観
- 人間性・協調性

の醸成

卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施の方針

本学は、建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、歯科医師としての知識・技能だけでなく、高い倫理観や人間性・協調性の醸成を柱とした教育課程を編成しています。

また、他領域との連携やグローバルな規模で活躍できる人材を育成するため、問題基盤型学修やグループ討論を通じて、積極性・能動性・協調性を伸ばす教育課程を編成しています。この教育課程を通じて、歯科医師としての基本的な知識、技能、態度を修得するとともに、生涯研修・研究を行う態度、問題発見・解決能力を身につけることを学位授与の方針としています。

ディ 卒業認定・学位授与の方針
ディプロマ・ポリシー

1.医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を身につけ、多様性の中で常に向上しようと努力する人。
2.医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な歯科医療を提供するために必要な基本的知識と技能を修得している人。
3.積極的な自主学修態度と論理的思考および問題発見・解決のための基本的な能力を身につけている人。

カ 教育課程編成・実施の方針
リキュラムポリシー

1.教育内容
1）医療人としての高い倫理観や人間性・協調性を醸成するために、ダイアゴナル・カリキュラムに基づく6年一貫コミュニケーション教育を推進します。
2）歯科医学専門科目を十分に理解するために、必要な基礎知識の修得を目的として個々の習熟度に応じた教養教育のカリキュラムやITリテラシー教育を実施します。
3）医学・歯科医学を統合的に理解して全人的な医療を提供するために、ITを活用した豊富な教育資源を活用した医学系科目を含む多元的かつ重層的な専門科目のカリキュラムを実施します。
4）国際人としての素養を身につけるために、姉妹校における海外研修を推進します。
5）研究マインドを備えた歯科医療人となるために、卒業論文研究を推進します。
2.教育方法
1）主体的な学びの力を高めるために、アクティブラーニング（能動的学修：グループ・ワーク、ディベート、体験学修、調査学修、等）を取り入れた教育方法を教養教育、ITリテラシー教育、専門科目、海外研修、卒業論文研究で実施します。
2）積極的な自主学修態度と論理的思考および問題発見・解決能力を修得するために、問題基盤型学修カリキュラムを主に専門科目で実施します。
3）質の高い歯科医療を提供するために、充実した臨床基礎実習と特色ある本学の3病院における診療参加型臨床実習を実施します。
4）積極的な自主学修の習慣を形成するために、充実した環境を整備します。
3.評価
1）学修成果を総合的かつ客観的に評価するために、歯科医療の実践に必要な知識については、各学年終了時に6年間一貫した総合学力試験を軸とする総括的評価を行います。
2）歯科医師として必要な技能については、臨床基礎実習での技能評価と診療参加型臨床実習での技能評価をもって総括的評価を行います。
3）歯科医師として必要な態度については、第1～4学年のコミュニケーション学での観察記録を軸とする態度評価と診療参加型臨床実習での態度評価をもって総括的評価を行います。

ア 入学者受け入れ方針
ドミッション・ポリシー

建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、人物・学力ともに優秀で、将来、国民医療に貢献する歯科医療担当者としての能力・適性を充分に有する人を求めています。
1.医療人としての倫理観や高い人間性を、常に向上心をもって追求しようと努力している人。
2.歯科医学を学ぶための充分な資質と基礎学力を有している人。
3.口腔の健康管理を通し、国民の医療と福祉に貢献しようとする意欲がある人。
4.様々な問題に対して広い観点から考え、判断し、解決しようと努力できる人。
5.他者との協調を大切にし、主体性を持って多様な人々と協同することができる人。

卒 ディプロマポリシーの見体的な行動指針
業時コンピテンシー

1.アイデンティティー
「歯科医師たる前に人間たれ」という建学の精神を身につけている。
2.プロフェッショナリズム
歯科医師としての社会的使命を自覚しつつ、法と医療倫理を遵守し、医療安全に配慮しながら誠実に患者中心の医療を提供する。
3.社会的貢献
地域社会における保健、医療、福祉、行政等の活動を通じて、国民の健康回復、維持、向上と疾病の予防に貢献する。
4.コミュニケーション
患者、家族、医療関係者やその他の人々の心理・社会的背景を踏まえながら、適切なコミュニケーションを介して良好な人間関係を構築するとともに、必要な情報を収集し、提供する。
5.チーム医療
医療従事者をはじめ、患者や家族に関わるすべての人々の役割を理解し、連携を図る。
6.自己研鑽
常に医療の質の向上を目指し、他の医療従事者とともに研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。
7.医学知識と問題対応能力
最新の医学および医療に関する知識を獲得し、科学的根拠に経験を加味して問題解決を図る。
8.専門的実践能力
医療人としての適切な態度のもと、統合された知識と基本的技能を身につけ、患者のライフステージおよび全身状態と患者や家族の心理・社会的な背景を踏まえて、科学的根拠に基づいた医療を実践する。
1）適切な診察と検査によって歯科疾患を診断し、診療計画を立案する。
2）歯科疾患を予防するための口腔衛生指導を実践する。
3）歯の硬組織疾患、歯髄疾患、歯周病、口腔外科疾患、歯質と歯の欠損、口腔機能の発達不全および口腔機能の低下など、一般的な歯科疾患に対応するための基本的な治療と管理を実践する。
4）歯科診療を安全に行うために、必要に応じて主治の医師等と情報を共有しながら患者の全身状態を評価する。
5）歯科診療を安全に行うために、医療事故予防のための対策を実践する。

入学までに身につけておいてほしいこと

本学では建学の精神に則り、口腔の健康管理を通して国民医療に貢献するために、高度な知識、技能だけでなく医療人としての倫理観や高い人間性、他者との協調性を兼ね備えた歯科医療担当者の育成を目指しています。
本学に入学を希望する諸君はこのことを理解し、本学指定の受験科目だけでなく高等学校で必修になっている科目を十分に学び、歯科医学を修得するための資質と基礎学力を身につけてください。入学者選抜にあたっては、出願時の提出書類、学力試験・小テスト、小論文、面接により、学力の3要素「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を総合的に評価します。

ポリシー

ア 学修成果の評価の方針
セスメントポリシー

東京歯科大学では、学生が修得した知識、技能並びに態度を多面的に評価するとともに、ディプロマ、カリキュラム、アドミッションの3 つのポリシーに基づき、機関レベル（大学）・教育課程レベル（歯学部・歯学科）・科目レベル（授業・科目）の 3 段階で、効果的な教育方法等によって実行されているかを検証します。

本学歯学部は、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、学位を取得するに値する人材を育成するためのカリキュラムを構成しています。教養科目、基礎専門科目、臨床専門科目におけるカリキュラムでは、以下の指針に則って学年ごとに、あるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。進級状況・卒業要件達成状況（総合学力試験・GPA）、歯科医師免許の取得状況から教育課程全体を通した学修成果の達成状況を検証します。また、学年ごとの成績分布の状況から、各学年での科目全体を通じた知識、技能、態度並びに創造的思考の獲得状況を学修成果として検証します。科目レベルにおいては、シラバスで提示された授業科目の学修目標に対する評価、及び学生アンケート等の結果から、科目ごとの学修成果の達成状況を検証します。

1. 評価の内容について、講義科目や演習科目では、知識とその応用力を評価します。実習・実技科目では、技能 、態度、コミュニケーション能力等についても評価します。
2. 評価の方法および評価の基準について、知識とその応用力は筆記試験、口頭試問、レポート提出等により、技能は実技試験等により、原則として、数値化して達成度を評価します。その他の能力は実習現場評価で可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を評価します。
3. 臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と科目試験、総合学力試験で判定します。
4. GPA（Grade Point Average）による成績評価方法を導入し、学生個人および科目の達成度の評価に利用します。
5. 科目試験合否判定や進級あるいは卒業時の判定に用いる試験に加え、到達目標に至る道程を明らかにするため、形成的評価を随時行います。
6. 科目履修は出席することが前提です。各学年次の個々の講義・演習・実習科目を 20% 以上欠席した場合は、評価対象から外れます。
7. 定期試験、総合学力試験、共用試験で、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行うことがあります。また科目試験、総合学力試験、共用試験を、正当な事由で受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります。
8. 進級・卒業の要件の詳細、各科目の合否基準の詳細は別に定めて年度当初に明示します。なお、試験の合否は期日を定めて学生に通知します。

ミ 大学の使命・行動指針
ッションステートメント

東京歯科大学は、創立（1890年）以来、大学づくりに真摯な姿勢で取り組んでいます。それは、これから入学する人に、いま勉学に励む学生に、そして卒業した先輩たちに対して誠実でありたいからです。建学以来受け継がれる精神を信念に、あなたと一緒に成長していく大学です。

1. ライフ・サイエンスに基づいた「歯科医学」と先進技術に基づいた「歯科医療」の展開
2. 医療の心である「ケアの精神」に基づいた歯科医療の実践のための人間性教育
3. 保健医療につながる他領域との組織的連携と実践のための能力養成
4. 地域・国およびグローバルな規模での保健医療にコミットメントする人材の育成

教育改革 歯学教育の新時代を拓く5大事業

1
特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）選定
IT環境を有効活用し、6年一貫の学習評価を実現

- 試験問題のデータベース管理による学習評価の一元的な管理
- 本学オリジナルのオンライン・テストシステム

取組名：IT環境でのグローバルエバリュエーション

2
現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）選定
学生の統合型学習をサポートするself-Learning支援システム

- 豊富なコンテンツでself-Learningを支援する統合的e-Learning Program
- 学内無線LANを完備。いつでも、どこでもインターネット接続可能

取組名：統合型歯科医学教育への新たな展開―系統講義コンテンツを進化させた統合的e-Learning Programの開発―

3
大学教育・学生支援推進事業［テーマA］大学教育推進プログラム選定
個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成

- 市民ボランティア「ペイシェント・コミュニティ（P-Com）」の構築
- 「安心・信頼して診療を任せられる歯科医師としての人間力」の養成
- 個々の患者ニーズに応えられる診療計画立案能力の養成

取組名：個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成―高い倫理観とコミュニケーション能力に基づく総合診療計画立案能力の向上―

4
私立大学等教育研究活性化設備整備事業選定
個に応じた学習実施のためのクリッカーの活用

- 習熟度混成授業での個に応じた学習の推進
- グループ単位での学習を促進

取組名：習熟度混成授業での個に応じた学習実施のためのクリッカーの活用

5
ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業選定
VR教育システムを用いた360度視野の歯科教育用コンテンツ

- 歯科治療や手術など、術者や介助者の視線で術式を体感するVR学習の推進
- DXを用いて空間と時間を超え、経験と感覚を体得できるサスティナブルな教育の展開

取組名：東京歯科大学 ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

今後の教育課題について

本学においては、「歯科医師たる前に人間たれ」という「ヒューマニズム」を尊重した教育理念を建学の精神とし、歯科医学の知識や技術だけでなく、歯科医学のための一般教養、文理一体型の教育を行うとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するための新たなデジタル技術を生かした教育を展開しています。また、ICTを利活用した教育の基本方針に則り、昨今の時流に沿った教育ICTの整備、情報セキュリティ対応、オンライン授業等の支援体制を通じて、入学から卒業まで、個々の学生の学修に応じた環境を提供することで学びの質を向上します。

さらに、数理・データサイエンス・AI教育を通じて、人生100年時代、Society5.0（超スマート社会）SDG's（持続可能な開発目標）といった現代社会の変化や要求に迅速に対応する能力を育成します。

そして、これらの教育を通して、人間的に豊かで社会性のある歯科医師を養成します。

大学としては18歳人口の減少やグローバル化、多様性が求められる中でも、常に変化に対応できるガバナンス体制を構築し、高等教育機関として求められる、地域や社会と連携した教育・研究活動を積極的に展開し、社会に貢献します。

また、有事の際に強い大学として、教育の質を落とさずに本学が所有する教育リソース（ネットワーク、デジタルシステム）を駆使し、現代から未来に求められる教育の体制構築を行っていきます。

カリキュラム 学びを深化させる6年一貫教育

カリキュラムは、建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」を基本に、歯科医師としての知識・技能だけでなく、コミュニケーション能力の向上と高い倫理観の醸成に重点を置いています。また、他領域との連携やグローバルな規模で活躍できる人材を育成するため、問題基盤型学習やグループ討論を通じて、積極性・能動性・協調性を伸ばすカリキュラムを展開しています。

さらに、学年主任・副主任を中心に、カリキュラムの進行に連動し、学生の成績や学習進度・学習態度を把握しながら、きめ細やかにサポートする体制の強化にも取り組んでいます。

教養系科目

歯科医師としての教養と専門知識理解のための基礎を作る

高度な教養と豊かな人間性を養い、歯科医学専門科目を充分に理解するために必要な基礎知識の総合的習得を目標としています。

一般教養科目、外国語科目、保健体育科目、基礎教育科目によって構成され、入学時のプレースメント・テスト等を活用し、理科・数学・英語系科目では、コース別授業や理解度別の授業を実施し、個々の習熟度に対応する柔軟なカリキュラムとなっています。また、情報科学入門では、活用スキルや情報倫理を学習し、本学の充実した環境を活用する能力を伸ばしています。

専門系科目

最新の教育設備を用い、より実践的に専門知識を修得する

適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を習得することを目標とし、さらに社会の福祉に貢献できる豊かな人間性の育成を目指しています。授業では、画像・動画を活用したデジタルコンテンツも多く活用され、人体のしくみやはたらき、物質の代謝、病気が発生する原因とメカニズムなどの現象を理解しやすいよう工夫しています。臨床系科目では、疾病に対する正確な検査・診断法を学ぶとともに、新しい歯科医療材料や方法を応用した治療法など、高度な歯科医療行為を行うための知識と基本的な技能を最新の実習器材を用いて学習しています。臨床の基本的な技能を学習する臨床基礎実習室には、多彩な視聴覚機能・実習設備が備えられ、実際の診療に即した技能を身につけることができます。実習においては学生対教員の比が平均8対1という少人数指導体制で、密度の高い教育が実践されています。

臨床実習

3医療施設の特色を活かした診療参加型臨床実習

第5学年から始まり、水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターでの臨床講義、示説、見学の他、教員によるマンツーマンの指導のもと、直接患者を担当する診療参加型の実習を行っています。多くの患者が来院され、豊富な症例を体験できる環境が整っています。特に、市川総合病院における臨床実習は、歯学部学生が一般医学臨床部門の見学と示説を通して一般医学知識を習得することを目標としており、本学の特色の一つとなっています。また、歯科・口腔外科（口腔腫瘍外科学講座、オーラルメディシン・病院歯科学講座）では、全身疾患を有する患者の歯科・口腔領域における治療の実際を習得するための臨床実習を行っています。2つの病院と歯科医療センターの特色を生かした臨床実習カリキュラムは他歯学部に例をみない本学独自のものであり、本学の歯科医学教育に対する姿勢を如実に示すものです。

コミュニケーション教育（態度教育）

よき医療人としての態度・習慣を身につける

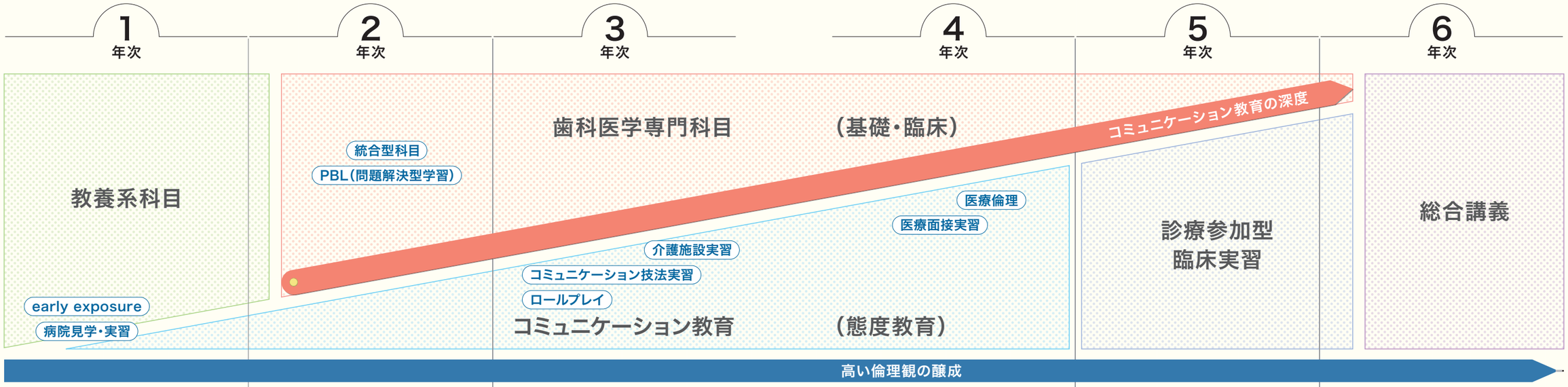
医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、その基盤の上に立ちつつ優れた知識と技能を持つ医療者となって初めて全人的医療、すなわち患者の立場に立った、患者の心を思いやる医療が可能となります。本学では、高度な知識・技能のみならず、良き医療人としての態度を身につけた歯科医師を輩出するため、コミュニケーション教育（態度教育）の充実を図っています。コミュニケーション教育を実施するにあたっては、短期集中型の講義・実習では人間形成の点から良質な成果を望むことは難しいことから、在学中のすべての年次において何らかの形で段階的・継続的かつ漸増的に行われるようなカリキュラムが組まれています（コミュニケーション教育におけるダイアゴナル・カリキュラム）。その教育内容は、様々な形態の学習とこれに対する学内外からの多面的評価によって行われ、1年次から6年次まで時期、レベルに応じた教育が行われています。

総合講義

6年間の歯科医学学修の総括

これまでに学んだ基礎系・臨床系科目の内容と臨床実習での症例から得られる経験とを踏まえて、歯科医学専門科目の総括的な知識の整理を目的とした「総合講義」を行っています。ここでは、重要ポイントをおさえた講義に加え、ポストテストやその解説などを通して、学生の理解度を見極めながら進めていきます。これにより、歯科医師として求められる生命科学・社会歯学・臨床歯学の知識と歯科臨床の診察・検査・診断能力を総合的に修得します。

カリキュラムマップ



教養系科目
1. 高度な教養と豊かな人間性を養う

- 心理学
- 生命倫理
- 医療法学
- 美術
- 哲学
- 経済学
- コミュニケーション学入門
- 英語Ⅰ
- 英語Ⅱ
- ［選択］日本語表現
- ［選択］中国語
- ［選択］韓国語
- 体育実技
- 身体の健康と体育理論
- 情報科学入門

教養系科目
2. 歯科医学専門科目を充分に理解するために必要な基礎知識を総合的に修得する

- 物理学Ⅰ（基礎・一般）
- 物理学Ⅱ（基礎・一般）
- 化学Ⅰ（基礎・一般）
- 化学Ⅱ（基礎・一般）
- 生物学Ⅰ（基礎・一般）
- 生物学Ⅱ
- 実習自然科学Ⅰ
- 自然科学演習
- 数学Ⅰ（基礎・一般）
- 統計学入門
- 歯科医学のための一般教養Ⅰ・Ⅱ
- 人類学
- 歯科医療管理学入門
  - ▶歯科社会保障学
  - ▶医療経済学

コミュニケーション教育（態度教育）
5. 医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、良き医療人としての態度を身につける

- コミュニケーション学「病院見学・歯学生の倫理」

教養系科目
1. 高度な教養と豊かな人間性を養う

- 歯科医学英語
- 英語Ⅲ（歯科医学英語講読）

教養系科目
2. 歯科医学専門科目を充分に理解するために必要な基礎知識を総合的に修得する

- 実習自然科学Ⅱ
- データサイエンス入門

歯科医学専門科目
3. 適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を修得する

【基礎系科目】
- 解剖学
- 解剖学実習
- 口腔解剖学
- 口腔解剖学実習
- 組織学
- 組織学実習
- 口腔組織学
- 口腔組織学実習
- 生理学
- 口腔生理学
- 生化学
- 衛生学
- 歯科理工学
- 歯の病変

統合型科目
4. 各科目で学習する内容を統合し、それぞれの科目を関連付けて横断的に理解する

- 生体構成物質の化学
- 生体現象の物理学
- 人体の構造と機能
- 生命の分子的基盤
- 発生病態学

歯科医学専門科目
3. 適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を修得する

【基礎系科目】
- 生理学実習
- 口腔生理学
- 生化学
- 生化学実習
- 病理学
- 病理学実習
- 口腔病理学
- 口腔病理学実習
- 微生物学実習
- 口腔微生物学
- 薬理学
- 薬理学実習
- 歯科薬理学
- 歯科理工学
- 歯科理工学実習
- 衛生学
- 衛生学実習
- 口腔衛生学

【臨床系科目】
- 歯内療法学
- 歯内療法学実習
- 保存修復学
- 保存修復学実習
- 歯科補綴学総論
- 老年歯科補綴学
- 老年歯科補綴学実習
- 歯科矯正学
- 小児歯科学
- 小児科学
- 眼科学
- 精神科学

コミュニケーション教育（態度教育）
5. 医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、良き医療人としての態度を身につける

- コミュニケーション学「医療面接」（コミュニケーション・トレーニング、統合予診シミュレーション実習）

歯科医学専門科目
3. 適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を修得する

【基礎系科目】
- 口腔衛生学
- 口腔衛生学実習
- 社会歯科学
- 法歯学

【臨床系科目】
- 臨床検査学
- 歯周療法学
- 歯周療法学実習
- 口腔外科学Ⅰ（口腔顎顔面外科学）
- 口腔外科学Ⅱ（口腔病態外科学）
- 口腔外科学実習
- クラウンブリッジ補綴学
- クラウンブリッジ補綴学実習
- 局部床義歯補綴学
- 局部床義歯補綴学実習
- 歯科矯正学
- 歯科矯正学実習
- 歯科放射線学
- 歯科放射線学実習
- 小児歯科学
- 小児歯科学実習
- 歯科麻酔学
- 歯科麻酔学実習
- 口腔健康科学
  - ▶障害者歯科学
  - ▶摂食嚥下リハビリテーション学
- オーラルメディシン
- 口腔インプラント学
- 口腔インプラント学実習
- 内科学
- 外科学
- 整形外科学
- 産婦人科学
- 耳鼻咽頭科学
- 皮膚科学・形成外科学
- 歯科医療管理学
  - ▶社会保障制度
  - ▶医療倫理
  - ▶医療安全管理・院内感染予防

統合型科目
4. 各科目で学習する内容を統合し、それぞれの科目を関連付けて横断的に理解する

- 地域包括ケアと高齢者の歯科診療（講義）
- 地域包括ケアと高齢者の歯科診療「介護施設実習」「地域包括実習」「食物物性実習」

コミュニケーション教育（態度教育）
5. 医療の根幹をなすのは患者と医師・歯科医師との十分な信頼関係であり、良き医療人としての態度を身につける

- 課題講義
  - ▶コミュニケーション学（医療面接シミュレーション実習）

歯科医学専門科目
3. 適切な歯科医療を遂行するための専門的な知識と技能、幅広い知識を修得する

- 課題講義
  - ▶医療管理
  - ▶スポーツ歯学

臨床実習
6. 将来、歯科医師として適切な歯科医療を提供するために、本学の2つの病院と歯科医療センターでの診療参加型臨床実習を通じて、歯科臨床に必要な知識・技能・態度を身につける。

- 臨床実習

臨床実習
6. 将来、歯科医師として適切な歯科医療を提供するために、本学の2つの病院と歯科医療センターでの診療参加型臨床実習を通じて、歯科臨床に必要な知識・技能・態度を身につける。

- 臨床実習

総合講義
7. 将来、歯科医師として適切な歯科医療を提供するために、歯科医師として求められる生命科学・社会歯学・臨床歯学の知識と歯科臨床の診察・検査・診断能力を総合的に修得する。

- 総合講義

特色ある学習支援

3つの医療施設にて、
生涯に携わる高度歯科医療の基盤を学ぶ

■東京歯科大学の教育の特徴

高度にネットワークされたICT教育

教育用Webサイトによる授業コンテンツの提供、学生のための無線LANを活用したe-Leaningプログラムを開発するなど、先進的な教育プログラムで、学習環境を整備しています。

少人数教育がもたらす人と人とのつながり

きめ細やかなマンツーマン教育が本学の伝統です。学生数841名に対し教職員1,595名が教育にあたり（2024年5月現在）、学生1人あたりの教職員の多さは他大学に類を見ません。

歯科大学最大の病院・施設運営を通し、多職種連携によるチーム医療を学ぶ

水道橋病院、市川総合病院、千葉歯科医療センターと、すべてのキャンパスに附属病院・歯科医療センターを有する本学は、ますます重視される臨床教育を万全の体制で支援します。とりわけ511床26科の総合病院である市川総合病院は、歯科大学内で最大の規模を誇り、歯科のみならず医科を含め、総合的に学べることが本学の最大のメリットとなっています。

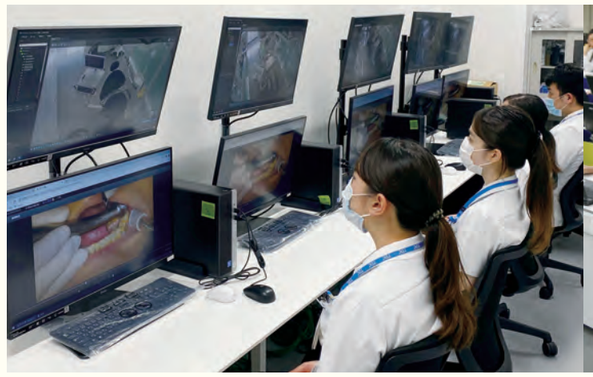
また、来院患者さんは立地や周囲環境、病院機能によってそれぞれ異なります。幅広い知識を持つ医療人を育成するために、1つの病院実習だけでは学べない医療の多様性を習得できる環境が、本学には整っています。

《歯科と医科を総合的に学べる》

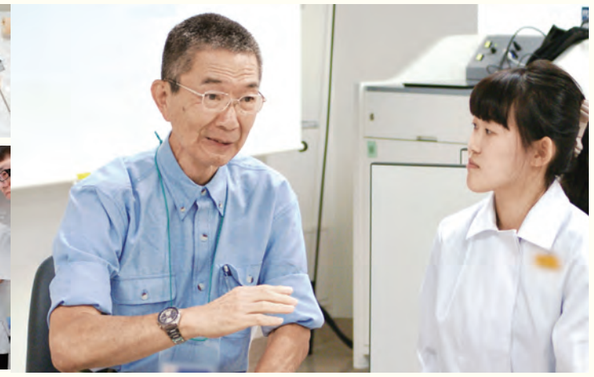
スキルスラボ

スキルスラボは、市川総合病院内に設置された臨床実習施設です。口腔モデルだけでなく、心電図や血圧をモニターできるモデル、緊急時の気管挿管を体験できるモデル、採血の練習ができるモデルなどを完備し、本学学生はもちろん、研修歯科医や研修医、看護職員などがいつでも学べるように設備しています。

FD活動一環（試験問題作成に関するワークショップ）



歯科医師国家試験問題等の現状把握のための教員オンライン・テスト



P-Comメンバーと学生によるコミュニケーション学実習

■歯科医学教育開発センター

『教育内容・方法を常にアップデートする教育の司令塔』

東京歯科大学歯科医学教育開発センターは、歯科医学教育に関する教育内容および教育方法の研究・開発により歯科医学教育の発展に寄与することを目的に、2005年10月1日に設立されました。

教育改革を積極的に推進

歯科医学教育開発センターは、文部科学省の2005年度「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された『特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）』と『現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）』の継続的推進、歯科医学教育方法や教育システムの研究・開発、試験問題のデーターベース化と、学生成績の管理分析（IR部門）などを担っています。特にIR部門としては、学生の学修実態を把握し教育方法の改善および学修支援、入学から卒業までの学生成績の収集・分析・管理を行い、また、FD・SD部門として、教員に対するカリキュラム立案・教育方法・教育評価等に関する研修活動、教育方法等の研究及び開発を行っています。

歯科医学教育開発センターで収集、分析された情報は、本学における教学マネジメント体制の司る会議の中において常に点検、評価が実施され、本学の教育体制の適切性や教育の質の保証を維持するうえで、大変重要な役割を担っています。

社会が求める「個々の患者ニーズに応えられる歯科医師養成」に全力で挑む

東京歯科大学は、2017年度「私立大学研究ブランディング事業」の支援対象校として選定されました。この事業は、学長のリーダーシップの下、全学的な独自色を大きく打ち出す研究に取り組む私立大学に対して、文部科学省が支援する制度です。

本事業の推進により、最先端の教育と医療をもって社会に貢献できる確かな基盤を構築するという本学の「将来ビジョン」の具現化を目指します。

P-Comメンバーには「ヒューマニズムとリサーチマインドを堅持する歯科医師を育成する大学」のブランド化に向け、本学の教育に協力いただき、重要な役割を担っていただいています。

ペイシェントコミュニティー〈P-Com〉

本学の教育に対し、ご賛同くださる地域の人々で構成された「ペイシェントコミュニティー〈P-Com〉」と呼ばれる会が組織されています。P-Comのメンバーに本学の授業へご参加いただき学生へ直接感じたことをお話しいただくことで、以前の歯科医学教育では成し得なかった「よりリアルな教育」が可能となっています。本プログラムの推進もセンターの重要な活動の一つとなっています。

特色ある学習支援

■学習サポートの成果

6年間の学習の成果が問われる歯科医師国家試験。低学年からの充実したサポートによって学生個々が積み上げた知識は、20年以上連続No.1という合格率に結果として表れています。

国家試験開催年(回)	総合				新卒	
	全国平均合格率	本学合格率	国公私立順位	私立順位	国公私立順位	私立順位
2005年(98回)	74.6%	85.3%	9位	2位	6位	1位
2006年(99回)	80.8%	90.8%	7位	1位	9位	4位
2007年(100回)	74.2%	90.2%	5位	1位	4位	2位
2008年(101回)	68.9%	85.6%	4位	1位	9位	3位
2009年(102回)	67.5%	87.1%	4位	1位	7位	2位
2010年(103回)	69.5%	90.0%	3位	1位	6位	1位
2011年(104回)	71.0%	82.6%	10位	1位	12位	3位
2012年(105回)	71.1%	97.4%	1位	1位	1位	1位
2013年(106回)	71.2%	96.3%	1位	1位	1位	1位
2014年(107回)	63.3%	94.5%	1位	1位	1位	1位
2015年(108回)	63.8%	93.5%	1位	1位	1位	1位
2016年(109回)	63.6%	93.3%	1位	1位	3位	1位
2017年(110回)	65.0%	91.1%	2位	1位	3位	1位
2018年(111回)	64.5%	95.0%	1位	1位	1位	1位
2019年(112回)	63.7%	96.3%	1位	1位	2位	1位
2020年(113回)	65.6%	96.4%	1位	1位	3位	2位
2021年(114回)	64.6%	94.2%	1位	1位	1位	1位
2022年(115回)	61.6%	94.8%	1位	1位	1位	1位
2023年(116回)	63.5%	92.7%	1位	1位	1位	1位
2024年(117回)	66.3%	97.7%	1位	1位	1位	1位

■卒後研修 『それぞれの到達目標に応じた充実したプログラムを完備』

2006年度から必修化された歯科医師臨床研修制度における到達目標を踏まえ、充実した研修プログラムを準備。その他にも研究や実技修練への道が開かれており、2種類の専修科生の制度、さらには研究を行い論文提出をして博士号の申請を行うことのできる専攻生や、短期間の研究を行う研究生の制度があります。

また、歯科医師臨床研修以外の制度は、人生100年時代を見据えた多様な年齢層の多様なニーズに対応する教育体制としてのリカレント教育・リスキル教育のプログラムの制度でもあります。

研 修歯科医

患者中心の全人的医療を理解し、歯科医師としての人格を涵養し、総合的な診療能力（態度・技能・知識）を身につけることを目的に、本学の3つの医療施設においてそれぞれの特色を生かした研修プログラムを用意。臨床研修修了後に引き続き研修を希望する場合には、さらに進んで学識と技術の習得ができる体制が組まれています。

専 修科生

歯学に関する専門分野での特別な知識と技能を習得することを目的としています。歯科医師国家試験に合格した者（ただし、2006年度以降の国家試験に合格した者については、歯科医師臨床研修を修了した者）、それと同等以上の学力があると認められた者が対象です。

臨床専門専修科生

各講座・研修室における専門分野ごとに定めた専修プログラムに従って、1年を単位として専門の知識と技能を習得します。

一般専修科生

各講座・研究室において、3か月を単位として歯学専門分野における特別な知識と技能を習得します。

専 攻生

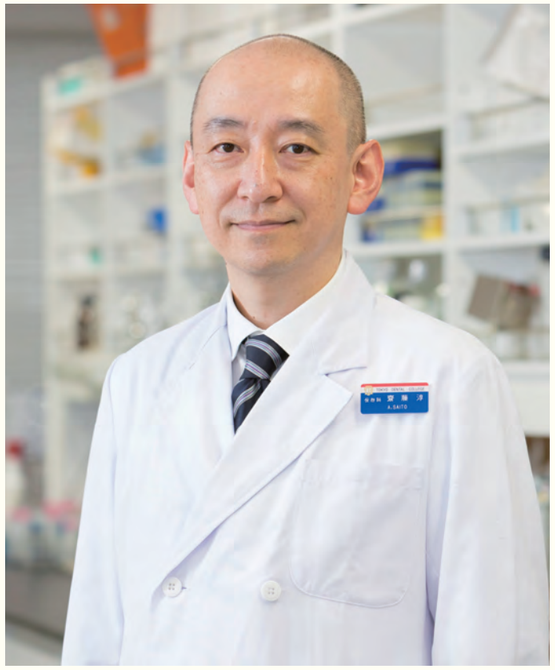
歯学に関し、講座・研究室主任教授の指導を受け、特に専門学科について精深高度の研究を行い、博士の学位取得を目的としています。研究期間は1年で、医師または歯科医師で2年以上の臨床経験、または研究歴を有する者か、それと同等以上の学力があると認められた者が対象です。

研 究生

教授の指導を受け、特に専門学科の研究を行うことを目的としています。全日制の第一研究生と定日制の第二研究生に区分され、歯科医師国家試験に合格した者、医薬系または理科系の大学を卒業した者、それらと同等以上の学力があると認められた者、あるいは医療系国家資格を有する者が対象です。研究期間は、第一研究生は1年、第二研究生は3か月を単位としています。

大学院歯学研究科

人類福祉の増進、文化の進展に寄与するとともに、優れた研究指導者及び歯科医学研究に精通した高度専門職業人を育成



東京歯科大学大学院歯学研究科の目的は、「歯学及び歯学に関連する学問の領域において、理論応用を教授かつ研究し、人類福祉の増進、延いては文化の進展に寄与するとともに、優れた研究指導者及び歯科医学研究に精通した高度専門職業人としての歯科医師を養成する」です。博士課程としての目的は、「独創的研究によって、従来の学術水準に新知見を加え、文化の発展に寄与するとともに、専攻分野に関する国際水準の研究、指導能力を涵養する」としています。

上記目的をふまえたディプロマ・ポリシーには修了要件として、「専攻分野に新しい知見を示した」、「歯科医学の発展に寄与する能力を有する」そして「国際水準の研究・指導能力を有する」の3つを掲げています。これらを全ての大学院生が確実に達成できるよう、カリキュラム・ポリシーに基づく教育を研究指導の先生方とともに実践してまいります。

これまでも本学大学院からは、多くの素晴らしい人材が巣立ち、各方面でめざましい活躍をしています。これからも、学生から選ばれ続ける大学院であるため、全力を尽くしてまいります。日本のみならず、世界の歯科界をリードする人材の育成を通して、社会に貢献することを目指します。

研究科長

齋藤 淳 SAITO Atsushi

DATA

学年	1年次	2年次	3年次	4年次	計
定員	34	34	34	34	136
基礎系	3	3	3	6	15
臨床系	29	25	34	32	120
計	32	28	37	38	135

（2024年5月1日現在）

大学院歯学研究科は昭和33年に開設され、学位授与者は2,492名、大学院博士課程修了者は1,648名に上ります。

現在、大学院生総数135名（学生募集人員は136名）に対し、指導者147名で臨む大学院は、東京歯科大学の研究拠点として重要な役割を担っています。

ディプロマ・ポリシー

本学歯学研究科に必要な年限在学して所定の単位【30単位以上（主科目24単位、共通講義4単位以上（1、2年の各年次において必修講義2単位を含む）、大学院セミナー3単位以上（1〜3年の各年次において1単位以上）】を修得し、必要な研究指導を受けた上、その成果を学位論文としてとりまとめ、学位論文審査及び最終試験に合格し、次の要件を満たす者に修了を認定し、博士（歯学）の学位を授与します。

1.専攻分野に新しい知見を示した。
2.歯科医学の発展に寄与する能力を有する。
3.国際水準の研究・指導能力を有する。

カリキュラム・ポリシー

国際的視野を有し、優れた研究指導者および歯科医学研究に精通した高度な専門職業人としての歯科医師を養成するため、専攻分野に加え、関連分野の知識・研究手法を修得できる科目編成を行うとともに、先進的な歯学領域の研究に関する知識・技術を教授する授業科目を開設・更新することとしています。

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、必修科目、選択科目、その他必要とする科目を体系的に編成し、研究指導に加えて、講義、研修を適切に組み合わせた教育を行います。カリキュラムの体系を示すために、科目間の関連や科目内容をカリキュラム・マップとして明示します。

アドミッション・ポリシー

教育の理念・目標

歯学研究科では、歯学および歯学に関連する学問の領域において、理論応用を教授かつ研究し、広い視野に立って精深な学識を授けます。その結果、人類福祉の増進、延いては文化の進展に寄与するとともに、国際的な視野、優れた研究能力、豊かな学識を有する研究指導者および歯科医学研究に精通した高度な専門職業人を養成します。

教育の基本方針

歯学研究科では、特定の分野について専門的な知識の習得に限らず、関連する分野についても十分な知識を得て研究を進められるようカリキュラムが組まれています。また、国際的視野を見据え、多様な問題に対処できる研究指導者ならびに専門職業人の人材養成を目指しています。

求める学生像

歯学研究科では、次のような「研究指導者をめざす学生」ならびに「高度な専門知識を備えた専門職業人をめざす学生」を求めています。

1.人類の持続的発展に貢献するために強い学術的関心と幅広い視野を持つ人。
2.国際的視野と高度な専門知識・語学力を身に付け、人類福祉の増進に寄与したい人。
3.既成の価値観にとらわれず、自ら問題を発見し、解決しようとする力を備えている人。
4.将来研究指導者または高度専門職業人として国際的に活躍したいという意欲のある人。

講座研究コースのほか、口腔がん研究に特化した3つのコースを設置

東京歯科大学大学院歯学研究科では、講座研究コース（P24〜P25参照）とは別に、口腔がんの研究に特化した3つの口腔がん専門医養成コースを設置しています。

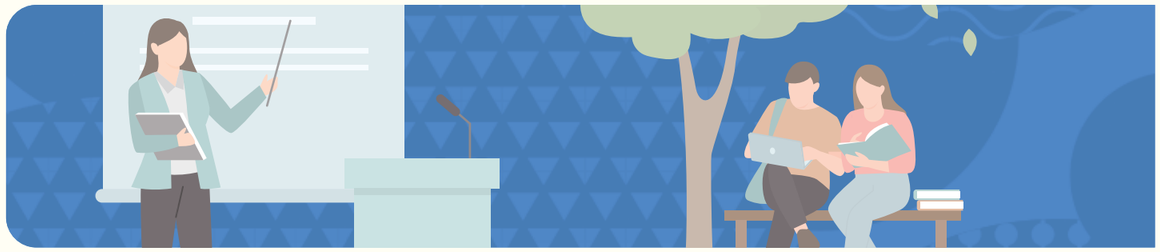
もともとは文部科学省の大学改革支援事業として、大学院教育の活性化を促進し今後のがん医療を担う医療人の養成推進を図ることを目的としたところから始まっています。本コースでは、口腔がん関連の講座に所属しながら、市川総合病院に併設されている東京歯科大学口腔がんセンターにおいて臨床スキルの習得を図り、口腔がんのスペシャリストを目指します。

口腔がん治療専門医養成コース	がんの医療現場において、口腔がんの最先端の診断・治療をマネージメントできる能力を習得し、チーム医療を牽引できる歯科口腔外科医を養成します。
顎顔面補綴専門医養成コース	がんの医療現場における支持療法、特に口腔癌切除症例に対する顎顔面補綴分野における高度な歯科治療を提供できるスペシャリストを養成します。
支持療法専門医養成コース	**口腔ケア・摂食嚥下リハビリテーション・栄養療法分野** 口腔がん治療の支持療法のうち、口腔機能回復のために重要な口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションに関わるスペシャリストを養成します。

講座・研究室
および研究内容（講座研究コース）一覧

歯科基礎系講座

解剖学講座 （主任：阿部伸一）	●『運動器：筋-腱接合部』の構造獲得と加齢変化のメカニズム解明 ●顎骨における生体アパタイト結晶の配向性
組織・発生学講座 （主任：山本 仁）	●歯と歯周組織を含む顎顔面領域の構造物の発生、成長、加齢、再生 ●口腔の機能、特に嚥下に関わる構造の発生・成長・加齢
生理学講座 （主任：澁川義幸）	●感覚受容センサータンパク質を標的とした、歯痛制御と歯の再生 ●口腔領域の感覚機構における常態 – 病態機能関連解析
生化学講座 （主任代行）	●硬組織代謝機構の解明 ●幹細胞の機能解明とその応用
病理学講座 （主任：松坂賢一）	●口腔に発生する疾患の病態解明 ●口腔組織の創傷治癒および再生に関する研究 ●生体材料に対する生体細胞の動態検索
微生物学講座 （主任：石原和幸）	●ディスバイオーシスのメカニズム解明 ●口腔細菌のバイオフィルム形成メカニズムの解析 ●歯周病原性菌の病原性発現機構の解析
薬理学講座 （主任：笠原正貴）	●低酸素応答の制御と難治性疾患治療へのチャレンジ ●致死性低ホスファターゼ症の遺伝子治療 ●抜歯後と骨折後における修復過程の薬理学的考察
歯科理工学講座 （主任：服部雅之）	●三次元造形技術による歯科医療技術の構築 ●物性改良による歯科材料の新規開発
衛生学講座 （主任：杉原直樹）	●口腔疾患（歯冠・根面う蝕、歯周病、酸蝕症）の疫学的研究 ●フッ化物によるう蝕・酸蝕症の予防に関する研究
法歯学・法人類学講座 （主任：石川 昂）	●法歯学・法人類学的個人識別及び物体検査に関する研究 ●歯の硬組織を用いた年代推定法に関する研究 ●DNA多型による地理的由来の推定に関する研究
社会歯科学講座 （主任：平田創一郎）	●歯科医療の需給・地域偏在に関する研究 ●医療機関の安全管理に関する研究 ●歯科医学教育に関する研究



歯科臨床系講座・研究室

歯内療法学講座 （主任代行）	●歯髄および根尖歯周組織の病態および診断 ●歯の移植・再植と歯根膜組織
歯周病学講座 （主任：齋藤 淳）	●歯周組織再生の基礎的・臨床的研究 ●歯周病原細菌と宿主の相互作用
保存修復学講座 （主任：村松 敬）	●エナメル質の再石灰化機構の解明と促進物質の開発 ●歯髄傷害とダメージ回避機構の解明 ●歯髄保護のための材料・接着技術の開発
小児歯科学講座 （主任：新谷誠康）	●歯列・咬合の成長・発達に関する形態的および機能的研究 ●先天異常疾患の発生因子に関する分子生物学的研究 ●小児の口腔内細菌叢と疾患発生リスクに関する研究
口腔顎顔面外科学講座 （主任：渡邊 章）	●口唇裂・口蓋裂、顎変形症などの先天性疾患の発症メカニズムの探究とデジタルデバイスの臨床応用 ●骨再生療法を応用した口腔顎顔面再建の基礎的・臨床的研究 ●口腔がんのバイオテクノロジーを応用した免疫療法の確立とAIを用いた早期診断法
口腔病態外科学講座 （主任：片倉 朗）	●口腔癌の早期診断と予後因子に関する基礎的・臨床的研究 ●MR技術を応用した口腔外科手術の精度向上に関する研究
歯科麻酔学講座 （主任代行）	●歯科患者（高齢者・有病者・障害者）の全身管理 ●術後疼痛における個別化医療
老年歯科補綴学講座 （主任：上田貴之）	●有床義歯の材料、製作方法、CAD/CAM法の応用、機能評価、管理方法に関する臨床研究 ●高齢者の口腔機能評価と口腔機能管理
クラウンブリッジ補綴学講座 （主任：関根秀志）	●デジタル技術を応用した接着・審美材料の補綴歯科領域への臨床応用指針に関する研究 ●疾患モデルマウスを用いた変形性顎関節疾患の病態解析
パーシャルデンチャー補綴学講座 （主任：山下秀一郎）	●顎口腔機能における咬合の役割に関する研究 ●CAD/CAMを応用した局部床義歯製作方法の開発
歯科矯正学講座 （主任：西井 康）	●歯科矯正用アンカースクリューの開発 ●下顎頭吸収メカニズムの解明 ●顎変形症の硬軟組織形態分析
歯科放射線学講座 （主任：後藤多津子）	●口腔～脳の機能と全身疾患（認知症、糖尿病、高血圧、等） ●データサイエンスと先進的3D画像を駆使した新しい診断法、治療法、手術法の開発 ●病態や文化遺産の画像診断（MRI、US、CT、CBCT、PET、X線画像など）
口腔インプラント学講座 （主任：佐々木穂高）	●インプラント周囲上皮・結合織の解析（特異的遺伝子の解明） ●インプラント周囲骨の解析と骨形成 ●インプラント材料の開発と評価
口腔健康科学講座 （主任：福田謙一）	**［スポーツ歯学研究室］** ●顎口腔系のスポーツ外傷に関する研究 ●顎口腔系の状態変化やガム咀嚼が、全身運動機能へ及ぼす影響 **［摂食嚥下リハビリテーション研究室］** ●摂食嚥下機能評価ならびにリハビリテーション手技の新規開発 ●摂食嚥下リハビリテーション介入の効果検証 **［障害者歯科・口腔顔面痛研究室］** ●疼痛関連遺伝子多型研究 ●睡眠時ブラキシズムの生理機構とそれが咀嚼筋、顎関節、歯根膜、歯髄に及ぼす影響に関する研究 ●発達障害患者の歯科診療時行動調整に関する研究
口腔腫瘍外科学講座 （主任：野村武史）	●口腔癌の診断と治療に関する研究 ●難治性口腔粘膜疾患の発症メカニズムに関する研究 ●医科歯科関連疾患に関する研究
オーラルメディシン・ 病院歯科学講座 （主任：松浦信幸）	●歯科治療における有病者・障がい者の全身管理に関する研究 ●口腔内細菌の全身への影響に関する研究 ●サルコペニアと口腔機能障害に関する研究

東京歯科大学短期大学 歯科衛生学科・専攻科

豊かな教養と高い人格を備え、医療／介護との連携に対応できるハイレベルな歯科衛生士を育成

学校法人東京歯科大学は、1948年の歯科衛生士法制定後、翌年には東京歯科大学短期大学の前身である歯科衛生士学校を開設して、歯科衛生士教育を開始しました。その後、1976年に学校教育法の一部を改正する法律が公布、新たに専修学校の設置が規定され、歯科衛生士専門学校に昇格しています。本短期大学は、本邦での歯科衛生士教育の先駆けとなった歯科衛生士学校、その後専修学校に昇格した歯科衛生士専門学校へと継承されている歴史と伝統を基に2017年、東京歯科大学水道橋キャンパス内に東京歯科大学の建学者である血脇守之助の唱えた『ヒューマニズム』を尊重した教育理念を建学の精神として開学しました。本短期大学は東京歯科大学の教育・臨床・研究の高い機能を十分に活用して歯科衛生士教育を行っています。

学長
鳥山 佳則 TORIYAMA Yoshinori

東京歯科大学短期大学の教育方針

養成する人物像／学位授与の方針
ディプロマポリシー

（歯科衛生学科）

1.歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材
2.高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材
3.医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職として多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材
4.教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材

（専攻科歯科衛生学専攻）

1.歯科保健医療の提供とともに、教育、研究者の道を進むことのできる人材

ミッションステートメントの実践により、歯科医療人としての基本的なコンピテンシー（行動特性・能力）が身につくものと考えています。卒業までの学修の過程で、ディプロマ・ポリシーに関連づけられた授業を履修しながら、コンピテンシーの修得を積み重ね、卒業時には、ディプロマ・ポリシーに示された人材となることを目指します。

教育課程の編成及び実施に関する方針
カリキュラムポリシー

（歯科衛生学科）

1.歯科衛生士業務である歯科疾患の予防処置、歯科診療補助及び歯科保健指導の専門性を高めるために、時代に対応した高度な歯科医療に関する知識及び技能を修得する。
2.高齢社会において、楽しく、美味しく、安全な食事を支援するためには、食べる機能を担う口腔機能の維持増進が重要という考えから、口腔機能の変化や機能障害を把握し、統合して支援を行うための知識と技能と態度を修得する。
3.医学歯学のみならず、福祉など幅広い分野を学び、これらを統合して身につけることによって、医療・福祉の各領域の視点を持ちつつ、多職種と協働しながら、歯科衛生の立場から総合的な知識と技能を駆使して人々の健康づくりに寄与するための知識と技能と態度を修得する。

（専攻科歯科衛生学専攻）

1.変化の激しい社会のなかで、未知の事態や新しい状況に的確に対応していく力を養い、豊かな人間性や高い倫理観、多彩な表現力などを育むために、人間や社会を総合的に理解する幅広い教養と知識を修得する。また、医療現場では人が各々個別の特性を持ち、単純想起としての知識だけでは対応できないことを学び、問題を発見し、解決する自己開発能力を身につけるために必要な知識・技能・態度を修得する。
2.常に変化し続ける社会背景や法制度に対応しながら歯科衛生士として歯科医療保健を提供するにあたり、学術的な裏付けを自ら探求することができる教育・研究者として必要な、基本的な知識・技能・態度を修得する。

入学者受け入れ方針
アドミッションポリシー

（歯科衛生学科）

歯科衛生学の知識や技術を教育するだけではなく、医療人としての高い倫理観や他者を思いやる豊かな人間性、更には幅広い教養を育み、知識、技能、態度のバランスの取れた医療人の育成を目指しています。向上心を持ち、将来、我が国の歯科医療・保健・福祉に広く貢献しようとする意欲があり、歯科衛生学を修得するための基礎学力を有する学生を受入れます。

（専攻科歯科衛生学専攻）

1.歯科衛生学の専門的知識及び高度な技術を学び、学士取得に意欲を持っている人
2.研究心を持って、歯科衛生学の専門性を高めたい人
3.より高度なコミュニケーション能力を身に付け、多職種と協働できる協調性のある人
4.歯科医療の専門的知識、技能、態度を修得し、歯科衛生士の資格を有している人

学修成果の評価・改善の方針
アセスメントプラン

アセスメントプランとは、学生の学修成果を可視化することで、学修成果を測定・評価し、その結果から教育を改善していくための考え方です。本短期大学が定める三つの方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）が適切であるのか、また、これらの方針に基づき教育カリキュラムが適切に機能しているか、の視点から学修成果を測定・評価します。アセスメント（学修成果の評価）は、学生の入学時から卒業までを視野に入れ、機関レベル、カリキュラムレベル、授業科目レベルにおいて、多面的に行います。アセスメントプランに基づく点検評価によって「教学マネジメント」を確立させ、不断の教育改善に取り組みます。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）については、同ポリシーで示した資質・能力の適切性を入学時に、教育編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）については、同ポリシーに基づいて設計されたカリキュラムの適切性を在学中に、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）については、同ポリシーで示した資質・能力の適切性を卒業時および卒業後に、それぞれ成績、進級率・留年率、国家試験合格率、各種アンケートなど数種類の指標を相互に連携させ点検・評価を行います。

東京歯科大学短期大学が学生に求める
8つのコンピテンシー

①アイデンティティー・人間力：
建学の精神である「歯科医師たる前に人間たれ」という「ヒューマニズム」を尊重した教育理念・人本主義を理解し、幅広い教養と深い感性を身に付け行動する。

②倫理に基づく行動力：
医療人として、法と医療倫理を遵守するとともに高い倫理観に価値を置いて行動する。

③社会貢献力：
地域社会における保健、医療、福祉、行政等の活動を通じて、国民の健康回復、維持、向上と疾病の予防に貢献する。

④コミュニケーション能力：
患者、家族、医療関係者やその他の人々の心理・社会的背景を踏まえながら、状況に応じて相手を尊重して対話する。

⑤チーム医療・協働する力：
歯科医師、医師、連携する全ての医療従事者や患者・家族に関わるすべての人の役割を理解し、チーム医療の担い手として協調・協働する。

⑥自己研鑽力：
主体的に学び、他の医療従事者とともに研鑽しながら生涯にわたって自律的に学び続ける。

⑦問題探求力：
課題の本質に目を向け問題意識を持ち探求する。

⑧プロフェッショナリズム・専門的実践能力：
歯科衛生士としての社会的使命を自覚し、医療人としての適切な態度のもと、統合された知識と基本的技能を身につけ、臨床において実践する。

大学の使命・行動指針
ミッション・ステートメント

1.ライフ・サイエンスに基づいた「歯科医学」と先進技術に基づいた「歯科医療」の展開
2.医療の心である「ケアの精神」に基づいた歯科医療の実践のための人間性教育
3.保健医療につながる他領域との組織的連携と実践のための能力養成
4.地域・国およびグローバルな規模での保健医療にコミットメントする人材の育成

専攻科

専攻科では、歯科衛生学科で学修した歯科衛生学の学びを深め、さらに1年間の学修による単位を修得し、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構の学位審査に合格すると、4年制大学卒業と同等の「学士（口腔保健学）」が授与されます。

学位を取得することにより、大学卒業と同じ待遇を受けることができ、また、大学院への進学、高等教育機関や公的機関で活躍するなど、将来の選択肢が大きく広がります。

東京歯科大学短期大学
歯科衛生学科・専攻科

東京歯科大学短期大学の充実したカリキュラム

歯科医学の基礎だけでなく生命倫理、生物学、法学、経済学、統計学や英語などのリベラルアーツを加え、高い人間性と教養豊かな医療人の育成を行います。多様な分野を学ぶことで、専門分野の壁を越え、新しい価値を生み出す力を養います。

東京歯科大学短期大学は常に新しいかたちを見据え、幅広い領域に対応できる歯科衛生士の育成を行います。

病院で活躍するための総合病院での臨床・臨地実習

水道橋校舎本館内にある水道橋病院に加え、歯科大学で唯一の付属病院である市川総合病院にて充実した臨床・臨地実習を行います。医科疾患患者に対する治療に際し、多職種連携のできる歯科衛生士を育成します。

カリキュラム

1年	●心理学（選択科目） ●法学（選択科目） ●生命倫理 ●コミュニケーション理論と実際 ●生物学 ●情報リテラシー ●経済学（選択科目） ●国際保健学（選択科目） ●統計学 ●食育論（選択科目） ●英語Ⅰ（基礎英語） ●中国語（選択科目） ●韓国語（選択科目）	●解剖・口腔解剖学 ●組織・口腔組織学 ●生理・口腔生理学 ●病理・口腔病理学 ●微生物・口腔微生物学 ●公衆衛生学 ●口腔衛生学 ●生化学 ●薬理・歯科薬理学 ●歯科感染予防学 ●歯科放射線学 ●歯科材料学	●歯内療法学 ●保存修復学 ●歯周病学 ●歯科補綴学 ●歯科衛生学概論 ●歯科疾患予防論 ●小児歯科学 ●スペシャルニーズ歯科学 ●高齢者歯科学 ●実習Ⅰ（歯科予防処置） ●実習Ⅱ（歯科診療補助） ●歯科保健指導論 ●歯科衛生統計学
2年	●英語Ⅱ（歯科衛生士英語） ●看護学概論 ●保健医療福祉論 ●歯科矯正学 ●口腔外科学 ●口腔インプラント学 ●全身管理学	●実習Ⅰ（歯科予防処置） ●実習Ⅱ（歯科診療補助） ●実習Ⅲ（歯科保健指導） ●口腔機能リハビリテーション論 ●在宅歯科衛生管理論 ●医科疾患患者への歯科衛生 ●専門職間の連携活動論	●臨床栄養学 ●歯科衛生実践論 ●地域歯科衛生学 ●演習Ⅰ（障害者歯科・摂食機能療法） ●演習Ⅱ（歯科保健指導） ●臨床・臨地実習Ⅰ ●卒業研究
3年	●キャリアデザイン ●演習Ⅲ（地域歯科衛生）	●臨床・臨地実習Ⅱ ●臨床・臨地実習Ⅲ	●卒業研究 ●総合演習

図書館 22万冊の蔵書と多彩な学術情報を提供

図書館は、本学の前身である高山歯科医学院時代に教室の一部を利用し、学院の蔵書を学生に開放したことから始まります。それから130年有余たった現在、歯科医学とその周辺領域に関する専門資料を中心に、約22万冊が所蔵されています。

5つの図書館の利用が可能

図書館は、それぞれのキャンパス・校舎ごとに設置され、利用者へのサービス提供を行っています。また、電子ジャーナルや学術文献データベースなどの電子資料の充実にも力を入れています。ほとんどの電子資料は、キャンパス、校舎を問わず利用可能です。配送サービスにより、他校舎の蔵書資料も利用できます。

学術情報センターとして教育・研究・診療活動を支援

他機関との相互協力サービスを利用した文献の提供や、学術情報の活用に関する講習会を実施するなど、教育・研究・診療活動の支援を行っています。

大学史料室は貴重書・史料の宝庫

水道橋校舎新館には大学史料室が設置され、東京歯科大学および歯科医学の発展に関連した数々の歴史的な貴重書や貴重史料が保管されています。なかでも本学の建学者である血脇守之助と世界的細菌学者の野口英世とのゆかりの品々は、2人の師弟関係の深さを物語る貴重な資料として展示されています。

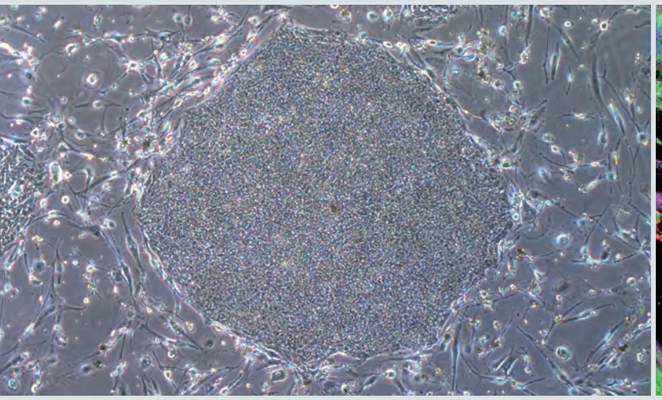
ゾーニングされた学習スペース

水道橋校舎本館、新館およびさいかち坂校舎の図書館にはパーティションで間仕切りされた一人掛けの閲覧席、1～2名でじっくりと論文作成などに取り組むことができる研究個室、ホワイトボードや可動式の机が備えられ、複数人で利用できるグループ学習室など、利用シーンに合わせた様々な学習スペースを用意しています。

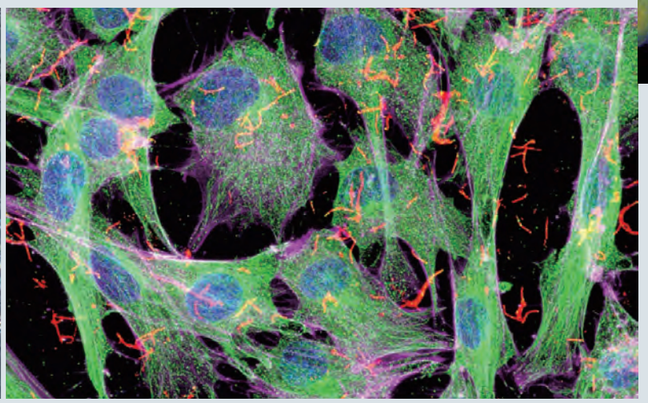
研 究

東京歯科大学の研究活動は、創設以来優れた研究者たちによって行われ、その時代時代において画期的な数多くの業績を挙げるとともに、歯科界を常にリードしてきました。 特に東京歯科大学では、専門分野である歯科医学のみならず、広く隣接医学・教養系の各分野での研究も行われていることから、他大学では見られない特色のある研究業績を残しています。

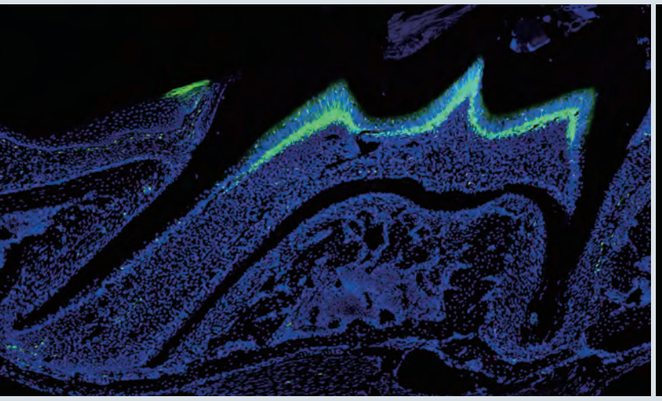
本学は1996年度に文部省（現文部科学省）の私立大学ハイテク・リサーチ・センター整備事業に選定され、それを契機に口腔科学研究センターを設置し、同センターを中心として先進的なプロジェクト研究を推進しています。



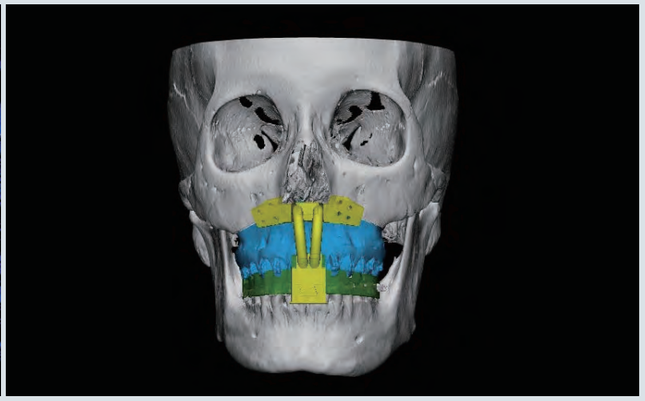
▶ iPS細胞を用いた顎骨疾患の発症メカニズムや治療法の開発。
写真は鎖骨頭蓋異形成症患者から樹立したiPS細胞。



▶ 歯周病の感染制御機構の解析。写真は培養細胞に歯周病原細菌(赤色)を感染させ、細胞へ侵入する細菌の観察。

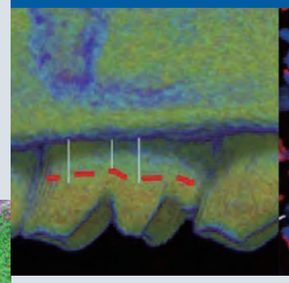


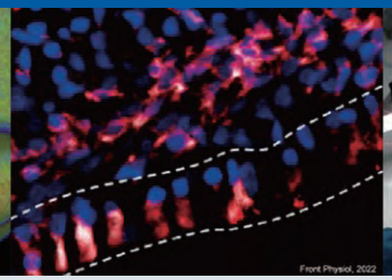
▶ 再生医療を目指した歯髄、歯根膜の幹細胞研究。
写真はNestin 陽性細胞がGFP を発現する遺伝子改変マウスの上顎第一臼歯。

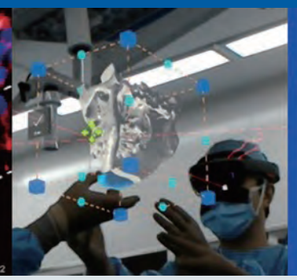


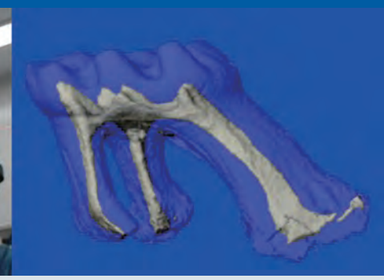
▶ CAD/CAM技術の口腔顎顔面外科手術への応用。
写真は上顎骨形成術（Le Fort I型骨切り術）での上顎骨をシミュレーション通りの位置に設置するためのポジショニングデバイス（黄色）と咬合床（緑色）。

東京歯科大学研究プロジェクト
（ウェルビーイングプロジェクト）









事業内容

各ライフステージにおける口腔顎顔面機能維持・改善で目指す
ウェルビーイング社会の実現（ウェルビーイングプロジェクト）

Well-being Society Achieved by Maintaining and
Improving Oral-Maxillofacial Function at Every Stage of Life（Well-being Project）

口腔は、生命維持の根幹を司ることに加え、
コミュニケーションを通して豊かな社会生活を送るために必須であり、
ウェルビーイングな社会を提供する重要な器官です。
本研究プロジェクトでは、口腔顎顔面の維持・改善を目的とした
4つのグループ（生体防御ラボ、常態-病態機能解析ラボ、
生体医工学ラボ、組織再生ラボ）を専門性の異なる基礎または
臨床に所属するメンバーで構築し、各ライフステージにおける
人々のウェルビーイング社会の実現を目指します。
そして、本研究プロジェクトを通して、
ヒューマニズムとリサーチマインドを堅持する
歯科医師・歯学研究者を育成します。

口腔科学研究センター　先進的かつ総合的な研究拠点

口腔科学研究センターは、口腔領域の組織、機能および歯科医療に関する先進的で総合的な研究を推進する研究拠点です。
同センターでは、すべての講座・研究室が利用できる共通機器を備え、横断的に研究を実施しています。
研究成果は、年1回開催されるワークショップにて公表されます。

■2つの部門で歯科医学の進歩と発展に寄与する口腔科学研究センター

口腔科学研究センターには、コア研究と大学間連携による共同研究のプロジェクトを研究主体とする戦略的研究部門と、円滑な研究を推進する研究支援部門があり、どちらも歯科医学の進歩と発展に寄与することを目的に活動しています。

- 戦略的研究部門
  - コア研究プロジェクト
    - 骨メカノバイオロジー部門
    - リスク因子検討研究部門
    - ストレス制御部門
  - 大学間連携による共同研究
    - プロジェクト1
- 研究支援部門
  - 研究機器施設
  - 実験動物施設
  - 事務部門

●口腔科学研究センター会議
●運営委員会
●動物実験委員会
●運営部会

戦 戦略的研究部
略的研究プロジェクトで時代をリード

戦略的研究部門では、高度な口腔保健医療を社会に提供するため、プロジェクト研究を行っています。どの研究も、研究結果をすみやかに臨床応用することを目指しています。高齢社会の進展、歯科医療に対するニーズの高度化、疾病構造の変化など、歯科医療を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、最先端の研究を世界に発信するのみならず、世界をリードする歯科医学の若手研究者の育成機関としても期待されています。

コア研究プロジェクト	
骨メカノバイオロジー部門 ・硬組織メカノレスポンス機能の解明	【テーマ】 分子イメージングと遺伝子発現解析による口腔疾患メカニズムの解明 【課題名】 ・in Vivo 蛍光プローブイメージング・フォトメトリ記録による末梢刺激誘発性中枢神経応答解析 ・金属3Dプリンタによる三次元積層造形法の歯科臨床応用に向けた歯工連携研究 ・下顎骨に前方推進力をかけた時のエンテーシスにおけるヘッジホッグシグナリングの影響について ・歯槽骨骨量・骨質コントロールによる歯の移動促進法の確立 ・AIによる顔面軟組織からの頭部骨格構造の推測 ・核膜タンパク質による骨芽細胞分化制御機構解明 ・ディスバイオーシスのプロセスにおける細菌間相互作用の解析
リスク因子検討研究部門 ・環境因子が歯周組織再生に及ぼす影響	
ストレス制御部門 ・4次元構成ストレスによる細胞機能制御	

万 研究支援部門
全の研究支援体制が活発な研究活動を推進

良質な研究を行うためには、設備の保守管理はもとより、情報発信や外部資金獲得など支援体制の充実が必要不可欠です。研究支援部門では、研究機器施設、実験動物施設、事務部門を組織し、教員や大学院生らの活発な研究活動を支援しています。

医療施設

水道橋病院
市川総合病院
千葉歯科医療センター

東京歯科大学は「日本で唯一の総合病院を持つ歯科大学」として、先進的な歯科治療はもとより、拠点病院として地域に貢献する3つの医療施設を展開しています。また、第5学年より各医療施設で行われる診療参加型実習により、歯科・口腔領域における全人的医療実践の礎を構築する教育機関としての機能も有しています。

東京歯科大学の 3医療施設が担う 3つの責務

先端医療
- ■最新設備と複数科の連携による総合的かつ患者中心的な医療の提供

教　育
- ■マンツーマン指導による全人的な医療を実践できる歯科医師の育成
- ■口腔がん治療のエキスパートの育成

地域貢献
- ■高次医療機関・拠点病院として、地域医療機関との円滑な連携を実現
- ■地域住民への医療情報の提供

高い倫理観に裏づけされた専門性の発揮

水道橋病院

130年余の歴史に裏打ちされた最先端医療
日本で最初の歯科大学病院

「思いやりの心による医療」を理念に、医療連携を密にした安全で質の高い高度歯科医療を提供する21世紀型病院です。
日本で最初の歯科大学開学の地に建つ都市型大学病院として、地域や同窓生から愛されています。

先端医療

歯科専門外来による専門性の高い治療の実践

136台の歯科診療台と20床の病床を有する水道橋病院では、専門領域の治療と並行し、複数科との連携による総合的な診療を展開しています。また、神経修復外来などの専門外来を設置し、難治症例はもとより有病者・高齢者への治療も安全に提供しています。

- 口腔ケア外来
- 睡眠時無呼吸症候群外来
- 神経修復外来
- リラックス歯科治療外来
- 口腔顔面痛みセンター
- 禁煙外来

地域貢献

地域医療連携を強化し、病診・病病連携の促進

地域歯科医師会との医療連携を強化し、医療連携報告会を開催しております。また、連携病院の周術期等の口腔機能管理や、訪問歯科診療を中心とした医科歯科連携を進めています。

地域貢献

京都指定自立支援医療機関として障害者を総合的に支援

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（2005年法律第123号）に規定された指定自立支援医療機関として、育成医療と更生医療を提供しています。

教　育

歯科臨床研修に加え、都内の医療従事者への教育・指導も実施

東京歯科大学の学生臨床実習や歯科医師臨床研修の場として高度かつ実践的な教育を行うほか、東京都エイズ診療従事者臨床研修教育・研修機関としての機能も有しています。

■DATA

病床数	20床
歯科診療台数	136台
外来患者数	1日平均 751.2人

（2023年度実績）

診療科	●保存科 ●補綴科 ●口腔外科 ●矯正歯科 ●小児歯科 ●歯科麻酔科 ●口腔インプラント科 ●健康スポーツ歯科	●スペシャルニーズ歯科・ペインクリニック科 ●摂食嚥下リハビリテーション科 ●内科 ●眼科 ●放射線科 ●臨床検査科

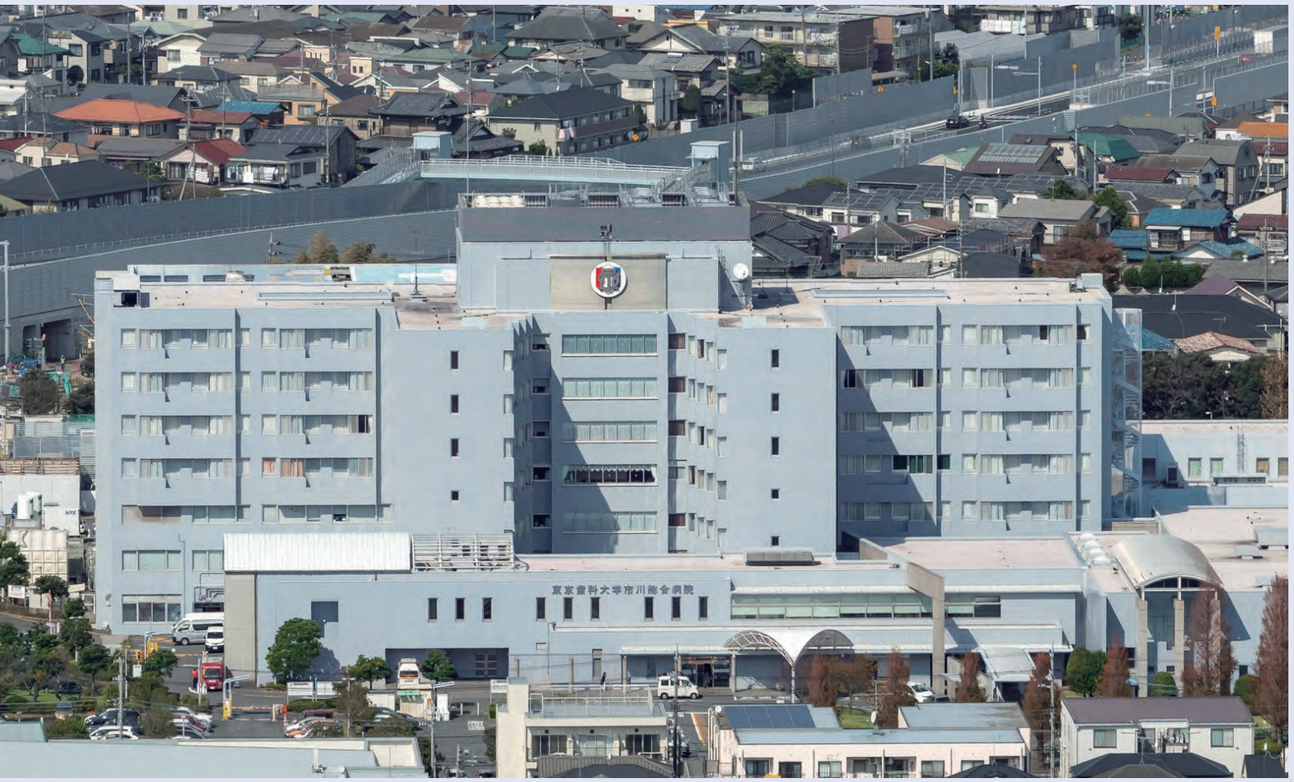
診療風景

学生臨床実習

市川総合病院 地域のがん・救急・災害拠点病院

市川総合病院は1946年に開設され、現在では標榜26診療科と診療科の枠を超えた集学的医療を実現する各種専門センター、および病床数511床を有する、高度で先進的な医療を提供する総合病院です。
歯科大学附属の総合病院として、歯科医学と一般医学の密接な交流を基本とし、地域医療の中心的な役割を担っています。

日本病院機能評価機構
(3rdG:ver.2.0)
認 定



■DATA

病床数	511床
歯科診療台数	25台
外来患者数	1日平均 1,135.5人
入院取扱患者数	1日平均 371.3人

(2023年度実績)

診療科		
●内科	●消化器外科	●産婦人科
●呼吸器内科	●整形外科	●眼科
●循環器内科	●脳神経外科	●耳鼻咽喉科
●消化器内科	●形成外科	●リハビリテーション科
●神経内科	●麻酔科	●放射線科
●腎臓内科	●精神科	●歯科
●外科	●小児科	●歯科口腔外科
●呼吸器外科	●皮膚科	●病理診断科
●心臓血管外科	●泌尿器科	

先端医療

専門センターにて患者さん一人ひとりに安全で質の高い医療を提供

地域社会から求められる総合病院として、地域の医療機関と円滑な連携を図り、継続性のある安心できる医療を提供。特に千葉県東葛南部医療圏における「地域がん診療連携拠点病院」として、地域におけるがん診療の拠点としての役割を果たしています。

●口腔がんセンター

全国初の口腔がん治療に特化した施設として2006年に開設。口腔がんは、食事・会話・表情の形成といった日常の営みに深く影響をあたえるばかりでなく、放置すると頸部から全身の臓器に転移することから、外科療法・放射線治療・化学療法の3つを柱とした、咀嚼・嚥下・発音の機能を最大限に配慮した包括的な医療を実践しています。
また、センタースタッフ、放射線診断医、治療医、リハビリテーション科、NST、顎補綴医、外科医、緩和ケアチームによるサポーティブケアも評価されています。

●角膜センター

24時間体制の移植コーディネーターを配備した国内唯一のアイバンクとして2007年に開設。文科省・厚労省の再生医療研究拠点として、組織や臓器移植に関する研究・教育も行っています。

●リプロダクションセンター

我が国2例目の体外受精・胚移植（IVF-ET）による妊娠・分娩や、本邦初の凍結受精卵による妊娠・分娩に成功するなど、不妊症治療や生殖補助医療の分野において多くの実績をあげています。

地域貢献

市川市の中核病院として地域医療に貢献

市川市の中核病院として地域医療支援病院の指定を受け、医師会・歯科医師会や地域医療機関との地域医療連携を推進しているほか、がん診療（地域がん診療連携拠点病院）、救急医療（救急病院指定）、災害医療（地域災害拠点病院）における地域医療への貢献を行っています。

教　育

次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

令和5年度～10年度文部科学省事業「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に本学が採択されました。
「口腔がん」と「がん支持療法」の専門医を養成するための大学院コースを設置し、市川総合病院を中心に臨床研究や研修を行います。

●東京歯科大学「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」　コースワークの概要

代表校名（連携大学名）	東京医科歯科大学（慶應義塾大学、国際医療福祉大学、順天堂大学、東海大学、東京歯科大学、東京薬科大学）計7大学
事業名	次世代がん医療を担う多職種人材養成プラン

診察風景

薬物療法室

千葉歯科医療センター

地域密着型の大学附属歯科診療所

前身である千葉病院は1981年9月に開院し、高度な歯科医療を提供する大学附属病院として地域医療に貢献してきました。大学機能の水道橋移転に伴い、2018年4月に病院から診療所となり、名称を千葉歯科医療センターに変更して、新たな歴史をスタートさせました。2020年に新しい診療施設を建設し、2021年3月に新たな医療機関として開院しました。

当センターは、歯科診療ユニット40台を稼働させ、全ての診療科の機能を維持しつつ、最新の医療機器を備えた大学附属の医療施設として、多様化する患者様のニーズに対応するとともに、かかりつけ医で対応困難な専門性の高い治療を地域の医療施設と連携して行っております。 また、水道橋病院、市川総合病院との学内連携を密にして地域医療に貢献するとともに、学生教育、研修歯科医教育等、医育施設としての役割も担っております。

■DATA

歯科診療台数	40台
外来患者数	1日平均350人

（2023年度実績）

診療科	口腔外科系	育成歯科系	一般歯科系	専門歯科系
	●口腔外科 ●歯科麻酔科 ●歯科放射線科	●矯正歯科 ●小児歯科	●保存科 ●補綴科 ●総合診療科	●口腔インプラント科 ●摂食嚥下リハビリテーション科

地域貢献

「これぞ歯科大学の医療施設」充実の診療環境で、地域密着型の先端医療を提供

歯科大学附属の医療施設ならではの充実した診療環境で、地域に密着した歯科医療を提供するほか、歯学部学生の臨床実習や臨床研修歯科医の研修の場としても機能しています。

専門外来

11の専門外来にて、多様化する患者ニーズに柔軟対応

症状別に細分化された11の専門外来を設置。多様化する患者ニーズに応える患者中心の医療を推進しています。

- 口臭外来
- 障害者歯科外来 I
- 口腔腫瘍外来
- 慢性の痛み・しびれ外来
- 障害者歯科外来 II
- 顎関節外来
- 急性期神経機能修復外来
- セカンドオピニオン外来
- 歯科睡眠時無呼吸外来
- 顎変形症外来
- リラックス治療外来

医療連携

歯学内連携と地域医療連携 高度な歯科医療で、地域の歯科医療に貢献

●学内連携

当センターは無床の歯科診療所ですが、外来で可能な外科処置等を行います。入院・全身麻酔下での手術が必要と判断した場合は、市川総合病院と連携して担当医が実施します。また、必要に応じて水道橋病院と連携して治療を行います。

●地域医療

地域の医療機関と連携し、高度な歯科医療を提供するとともに、高齢化が進行する現況下において、地域包括ケアシステムの構築を推進し、地域住民に良質で安全な歯科医療を提供します。

1階待合風景

診療風景

学術交流

国内・海外の大学間交流

教育・研究・臨床における相互交流

国内3大学と学術活動の推進を目的とした連携協定、海外12大学との姉妹校・学術協定締結、歴史ある学術研究団体である東京歯科大学学会と日本最古の同窓会組織 ── 歴史ある東京歯科大学だからこそ構築できる充実のネットワークにより、教育・研究・診療すべての面で日本と世界の歯科医療に貢献しています。

スウェーデン
- カロリンスカ大学
- イエテボリ大学

ドイツ
- ハイデルベルク大学
- チュービンゲン大学
- ミュンヘン工科大学
- マールブルグ大学

スイス
- バーゼル大学
- ジュネーブ大学

ロシア
- モスクワ国立医科歯科大学

スペイン
- コンプルテンセ大学

中国
- 空軍軍医大学口腔医学院
- 北京大学口腔医学院
- 四川大学華西口腔医学院
- 香港大学
- 温州医科大学

韓国
- 延世大学校歯科大学
- 慶北大学

台湾
- 台北医学大学口腔医学院
- 国立陽明交通大学

日本
- 慶應義塾大学
- 大妻女子大学
- 和洋女子大学

ニュージーランド
- カンタベリー大学

カナダ
- トロント大学
- マギル大学
- アルバータ大学

アメリカ
- フロリダ大学
- タフツ大学
- カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- 南カリフォルニア大学
- ハーバード大学
- ニューヨーク大学
- オレゴン健康科学大学
- ダナ・ファーバー癌研究所
- ミシガン大学
- イリノイ大学
- ボストン大学

連携協定の締結

東京歯科大学は、国内の3大学と教育・研究において交流を深め、連携をし、それぞれの大学の進歩と発展につながることを期待して、学術活動を推進することを目的とした包括的連携協定を締結しています。

【国内の連携協定締結校】

- 慶應義塾大学
- 大妻女子大学
- 和洋女子大学

海外の協定校と研究者・学生間の積極的交流を図る

東京歯科大学では、海外の12大学と姉妹校・学術交流協定を締結するとともに、世界中の大学や研究機関との交流を活発化し、研究者間および学生間の交流を推進してきました。さらに、研究の高い水準の維持・向上や新しい医療技術の導入を目的に、本学教職員の海外研究者との共同研究のための渡航や、国際学会への参加についても、積極的に推進・支援しています。

学生教育においては、「Elective Study Program」を設け、国内あるいは外国での学生相互間の交流をとおして、風俗・習慣による考え方の相違点と共通点を認識させ、国際感覚を養うことにより、人類のための普遍的な歯科医療に貢献できる人材の養成を目指しています。

【海外協定校】

- 延世大学校歯科大学
- フロリダ大学
- カロリンスカ大学
- 空軍軍医大学口腔医学院
- 台北医学大学口腔医学院
- モスクワ国立医科歯科大学
- 北京大学口腔医学院
- 四川大学華西口腔医学院
- タフツ大学
- 香港大学
- イエテボリ大学
- ハイデルベルク大学

東京歯科大学学会

大学の歴史とともに歩む学術研究団体

東京歯科大学学会は、東京歯科大学が継続的に後援する学術研究団体です。
3キャンパスから歯科医師・医師・医療系職員らが一体となって参加する学会として、
毎年10月に総会、6月に例会を開催しています。

■その歴史は東京歯科医学専門学校時代から

東京歯科大学学会の歴史は古く、前身である東京歯科医学専門学校時代の校内研究発表を起源としています。本会は、校内研究団体として組織化されたのち東京歯科医学会と命名され、1934年5月に月例の校内学会として発足しました。終戦後、東京歯科大学昇格に伴い、1950年1月28日開催の例会から東京歯科大学学会と改名されました。現在の会員数は、名誉会員・正会員・準会員・特別会員あわせて4,000名に達し、2015年10月に第300回東京歯科大学記念学会・総会を開催しました。

■時代を創る機関誌『歯科学報』

東京歯科大学学会の機関誌『歯科学報』は、1895年10月、高山歯科医学院院友会の機関誌『歯科医学叢談』として創刊されました（1900年に「歯科学報」と改題）。
東京歯科大学の研究活動および研究動向を示す歯科学術雑誌として、高水準の専門性を維持し続けてきました。
1986年には通巻1,000号の記念特集号を、2000年には通巻100巻記念特別号を発刊。現在は年4回（季刊）発行し、会員ならびに国内外の医科歯科系大学、研究所に配布されています。

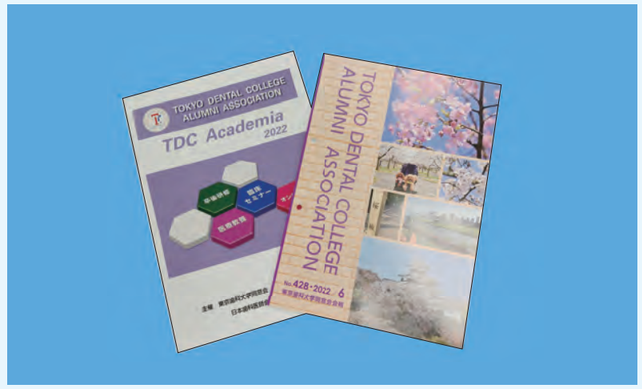
東京歯科大学同窓会

120年の歴史と新プロジェクトで歯科医師育成に貢献

東東京歯科大学とその前身、および大学院研究科の出身者で構成されている同窓会。
発足以来の会員数は約19,000名を超えています。現在9,000余名を数える会員は、全国107支部と11の地域支部連合会の組織のもと、会員相互の親睦と福祉の充実はもとより東京歯科大学の発展に寄与しています。

■TDCアカデミアによる人材育成プログラム

同窓会創立120周年を機に、新たな同窓会の1つの役割としてアカデミア構想をスタートしました。
アカデミア構想とは、生涯研修はもとより、歯科医師像の議論、学術や医療制度情報の交換・提供、先輩後輩の交流など、全国離れた地でもいろいろ新しい形に発展していくことを願った構想で、120年の歴史で培われた社会性をもった歯科医師の育成と歯科界の発展を目指しています。



出版物

歯科医学に向けて発信!東京歯科大学の歴史とともに歩む出版物

■欧文紀要

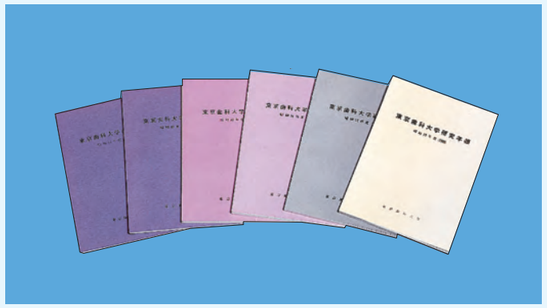
TheBulletinofTokyoDentalCollegeは、1960年以来毎年4回発行されている欧文学術論文誌です。一般学術誌として、国内・海外からの投稿も受理。近年は30編以上の学術論文が掲載されています。論文はPubMedを介しOnlineで一般公開されているほか、印刷誌は国内外約100か所の大学・研究所に交換誌あるいは寄贈図書として配付されています。

■大学広報

大学広報は、1957年4月以来発行されています。現在は年4回発行され、大学および3医療施設の行事、人事、研究の動向、慶事、弔事などを掲載。学内の日々の出来事を、東京歯科大学ならびに短期大学の教職員、学生および保護者らに逐次報告すると同時に、これらの記録として役立てています。

■教養系研究紀要

教養系研究紀要は、本学の教養系各研究室で行われた研究業績を掲載。1985年3月以来、毎年1回発行されています。



学術機関リポジトリにて公開 http://ir.tdc.ac.jp/
これら出版物および学内の学術成果は、本学学術機関リポジトリ（IRUCCA@TDC）にて公開中です。

組織

■法人役員等 Foundation

理事長 President	井出吉信	IDE Yoshinobu
常務理事 Exective Board Member	一戸達也	ICHINOHE Tatsuya
	片倉　朗	KATAKURA Akira
	西田次郎	NISHIDA Jiro
	加藤靖明	KATO Yasuaki
	澁谷國男	SHIBUYA Kunio
	松井淳一	MATSUI Junichi
理事 Board Member	金森越哉	KANAMORI Etsuya
監事 Auditors	石井拓男	ISHII Takuo
	橋本正次	HASHIMOTO Masatsugu
	榊原一夫	SAKAKIBARA Kazuo
法律顧問 Legal Adviser	五木田　彬	GOKITA Akira

■大学役職者等 College Administration

学長 Dean	一戸達也	ICHINOHE Tatsuya
副学長 Vice Dean	片倉　朗	KATAKURA Akira
	山本　仁	YAMAMOTO Hitoshi
	松井淳一	MATSUI Junichi
水道橋病院長 Director, Suidobashi Hospital	山下秀一郎	YAMASHITA Shuichiro
市川総合病院長 Director, Ichikawa General Hospital	西田次郎	NISHIDA Jiro
千葉歯科医療センター長 Director, Chiba Dental Center	片倉　朗	KATAKURA Akira
大学院歯学研究科長 Dean, Graduate School of Dental Science	齋藤　淳	SAITO Atsushi
短期大学学長 Dean, Junior College of Tokyo Dental College	鳥山佳則	TORIYAMA Yoshinori
事務局長 Secretary General	田口円裕	TAGUCHI Nobuhiro

（2024年5月1日現在）

■教職員数

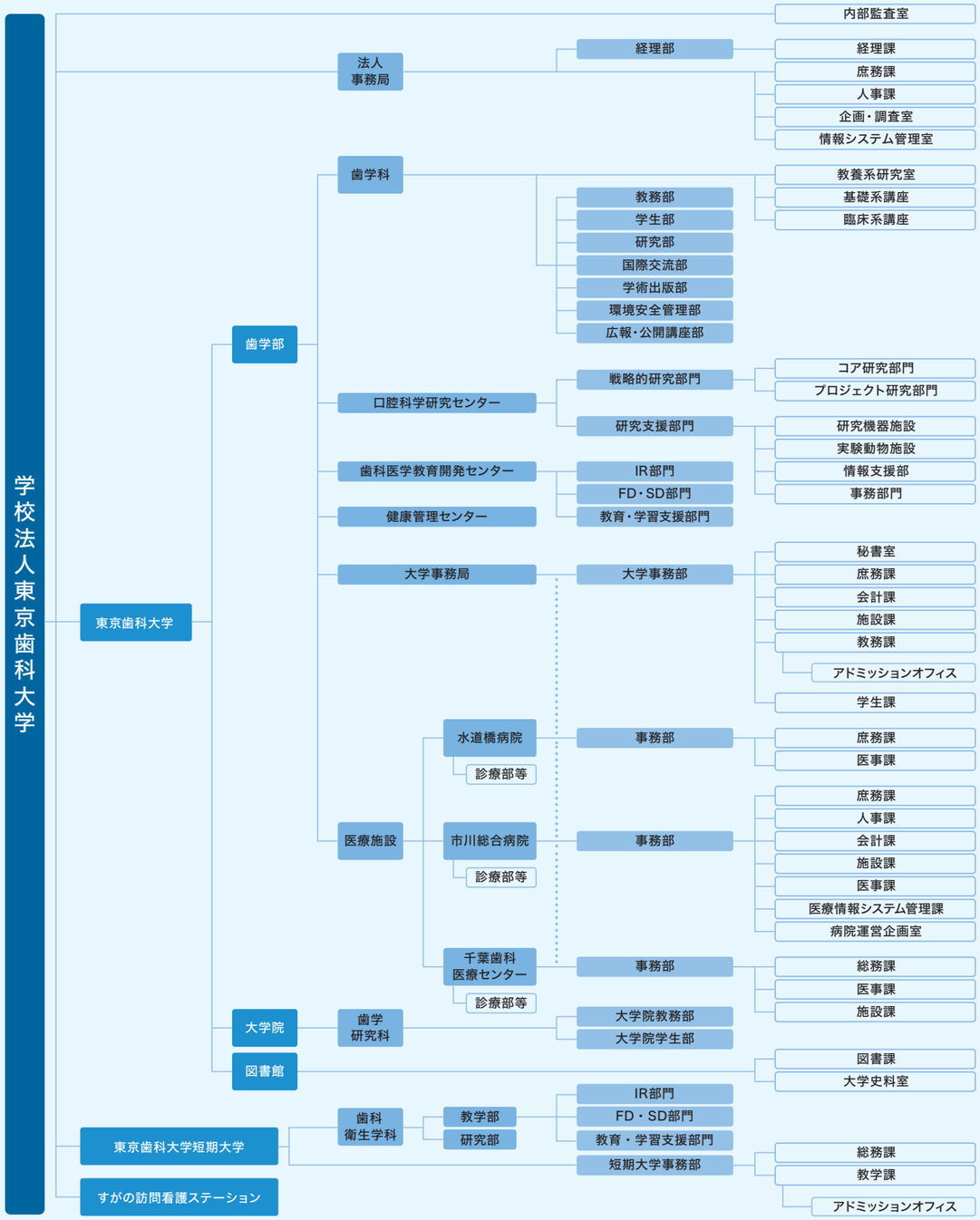
	教員職員							臨床教員	事務職員	医療職員		技術職員	労務職員	合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	嘱託教員	客員教員			医療技術員	看護職員			
大学	28	17	41	45	0	14	66	0	44	2	0	1	6	264
水道橋病院	0	1	0	3	0	1	1	57	21	64	28	0	1	177
市川総合病院	28	15	21	51	0	4	26	8	80	151	619	9	10	1022
千葉歯科医療センター	1	5	7	16	0	4	1	27	7	49	1	0	0	118
法人事務局	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	14
計	57	38	69	115	0	23	94	92	166	266	648	10	17	1595

※短期大学を除く

※客員教員のうち20名は嘱託教員の再掲、1名は嘱託職員の再掲、4名は特任教授

（2024年5月1日現在／含休職者）

■組織図



（2024年5月1日現在）

教授一覧

［凡例］

講座・研究室名
教授名
主な研究テーマ

学務役職者

学長／
歯科麻酔
一戸 達也
歯科患者の全身管理に関する総合的研究

副学長／
千葉歯科医療センター長
口腔病態外科
片倉 朗
唾液中のバイオマーカーによる口腔癌の早期発見

副学長／
組織・発生
山本 仁
歯や歯周組織と顎顔面部の構造の発生と再生

副学長／
外科
松井 淳一
膵再建術後の膵吻合部開存性と残膵病変

水道橋病院長／
パーシャルデンチャー補綴
山下 秀一郎
咬合支持の喪失が顎口腔機能に及ぼす影響

市川総合病院長／
内科
西田 次郎
肝微小循環障害に関する研究

法人

大学院歯学研究科長／
歯周病
齋藤 淳
歯周病原細菌と宿主細胞の相互作用について

短期大学学長／
歯科医療管理
鳥山 佳則
歯科診療報酬に関する研究

参与／
呼吸器外科
淺村 尚生
胸部臨床腫瘍学
(特に肺癌外科治療)

大学

数学
高際 睦
データサイエンス

物理
池上 健司
物理教育、曲がった時空中の量子論

解剖
阿部 伸一
運動器の発生と加齢変化の解明

生理
澁川 義幸
感覚受容メカニズムの分子細胞システム連関

病理
松坂 賢一
口腔腫瘍の病態、口腔諸組織の再生

微生物
石原 和幸
口腔細菌の歯周病原性因子の解明

薬理
笠原 正貴
低酸素応答における生体エネルギー代謝

歯科理工
服部 雅之
チタン合金の特性解明と歯科応用の確立

衛生
杉原 直樹
歯科疾患の疫学的研究

法歯学・法人類
石川 昂
水中死体を対象とした法歯鑑定法に関する研究

社会歯科
平田 創一郎
歯科医療の安全管理、歯科医療提供体制

歯科医療政策
田口 円裕
質の高い歯科保健医療提供体制の構築等、歯科保健医療分野におけるEBPMに関する研究

口腔科学研究センター
溝口 利英
骨格幹細胞による硬組織の制御機構の解明

保存修復
村松 敬
歯髄のダメージ回避機構の解明

小児歯科
新谷 誠康
硬組織基質タンパク質の分子生物学的研究

口腔顎顔面科学講座
渡邊 章
口唇裂・口蓋裂、顎変形症の発症に関わる遺伝子研究

老年歯科補綴
上田 貴之
高齢者の口腔機能の評価と管理に関する研究

クラウンブリッジ補綴
関根 秀志
咬合再構成における材料選択と設計指針に関する研究

歯科矯正
西井 康
診断の自動化と歯の移動の組織・分子生物学的解析

歯科放射線
後藤 多津子
口腔、顔面、そして脳機能に関する画像診断

口腔インプラント
佐々木 穂高
インプラント周囲上皮・結合織の解析(特異的遺伝子の解明)

スポーツ歯学
中島 一憲
咬合と全身運動機能の関連に関する研究

摂食嚥下
リハビリテーション
石田 瞭
摂食嚥下機能に関する研究

障害者歯科・
口腔顔面痛
福田 謙一
口腔顔面痛関連遺伝子多型分析、咀嚼筋腱痛とブラキシズムに関する研究

口腔腫瘍外科
野村 武史
最新のエビデンスに基づいた口腔癌の診断と治療に関する研究

オーラルメディシン・
病院歯科
松浦 信幸
麻酔薬が生体機能に及ぼす影響に関する研究

内科
循環器内科
大木 貴博
急性心筋梗塞の発生機序と治療法

内科
徳山 博文
慢性腎臓病進行抑止のための治療法の確立

外科
長谷川 博俊
外科領域疾患、特に消化器疾患に対する低侵襲治療の開発と安全な普及・教育

教授一覧

短期大学

短期大学
杉戸 博記
歯冠修復物の口腔内生存分析に関する研究

短期大学
安松 啓子
味覚の受容伝達と嗜好性形成機序の解明

短期大学
菅野 亜紀
フレイル予防のための口腔健康管理法の開発

病院

神経内科
柴田 護
片頭痛の病態生理と疾病負担

呼吸器内科
寺嶋 毅
慢性閉塞性肺疾患と歯周病との関連についての検討

小児科
福島 裕之
肺高血圧症の成因と新たな治療戦略

呼吸器外科
江口 圭介
肺および縦隔腫瘍、嚢胞性肺疾患の低侵襲手術

脳神経外科
佐々木 光
術前画像に基づく脳腫瘍の分子診断
悪性髄膜腫に対する新規治療の開発

脳神経外科
片山 正輝
脳卒中の脳血管内治療、口腔機能管理、地域連携

心臓血管外科
井上 仁人
自己心膜を用いた大動脈弁形成術、オフポンプバイパス手術

整形外科
穴澤 卯圭
骨軟部腫瘍の縮小手術、脊髄転移の除圧法の確立

リハビリテーション科
堀田 拓
運動器リハビリテーション、下肢人工関節手術

産婦人科
内田 浩
テーラーメイドの不妊症治療

眼科
山口 剛史
眼光学の角膜疾患への幅広い応用
角膜移植の予後改善

耳鼻咽喉科
飯村 慈朗
歯性上顎洞炎診療および鼻閉診療に対する手引きもしくは、ガイドラインの構築

泌尿器科
中川 健
泌尿器低侵襲手術、腎移植免疫抑制の最適化

放射線科
池田 耕士
頭頸部領域の画像診断、唾液腺疾患

皮膚科
石井 健
自己免疫性水疱症の病態解明と自己抗体病的活性測定法の開発

麻酔科
大内 貴志
「肺血栓塞栓症予防」および「体温管理」

臨床検査科
佐々木 文
骨軟部腫瘍の病理診断

緩和ケア科
小板橋 俊哉
がん性疼痛管理の新たな戦略の構築

救急科
鈴木 昌
救急医学一般、水素吸入療法の開発、環境温度と心血管疾患との関係

薬物療法科
和田 徳昭
がん薬物療法副作用管理、効果予測因子の検討

臨床薬学科
門田 佳子
医薬品の適正使用のための研究

学生・卒業生数

累計16,000名以上の卒業生を輩出

年間を通して850名余の学生が在籍している東京歯科大学。130年の歴史を総合すると、すでに累計16,000名以上もの卒業生を輩出しています（2024年5月1日現在）。

■学生数

学年	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
定員	140	140	140	140	140	140	840
募集人員	128	128	128	128	128	128	768

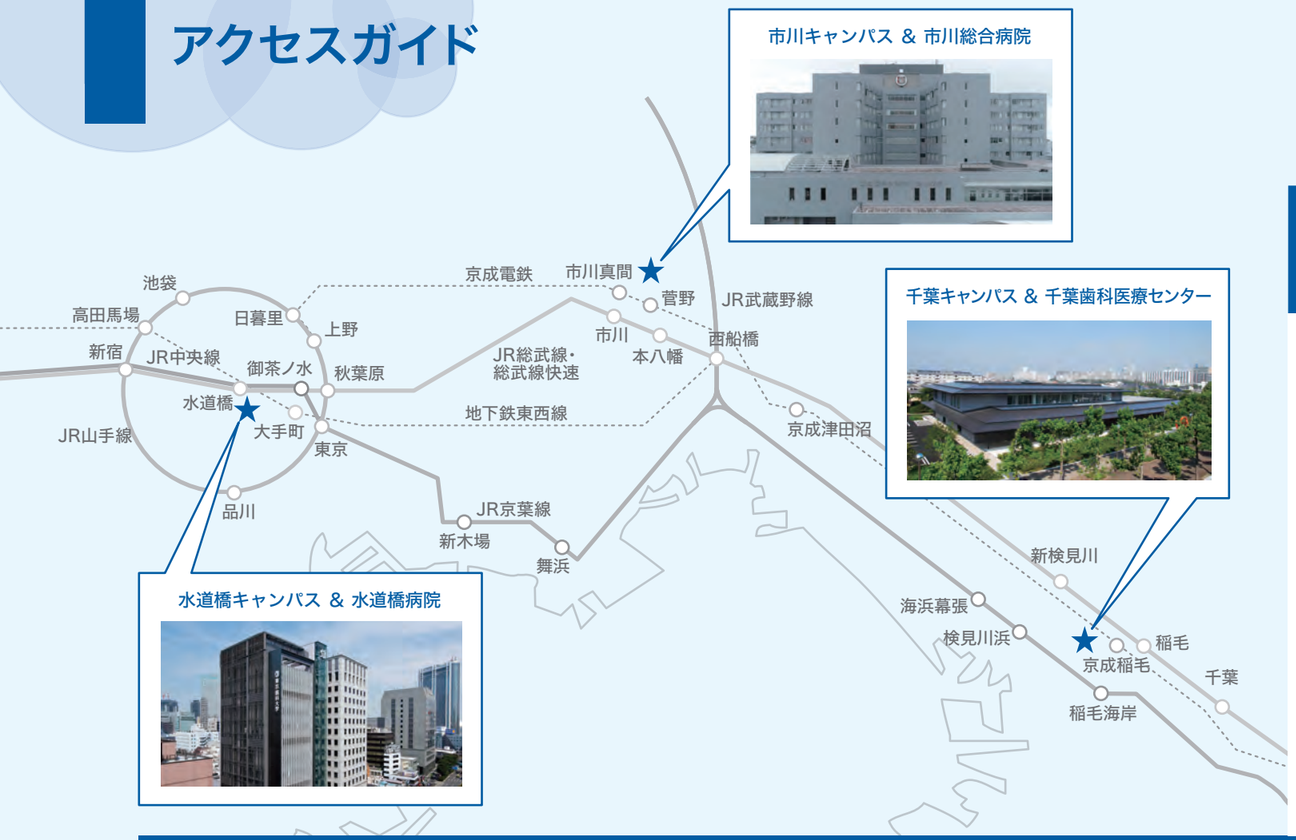
■現　員

男	64	62	62	73	56	75	392
女	68	85	76	68	76	76	449
計	132	147	138	141	132	151	841

■卒業生数

	卒回	卒業年	卒業生数（小累計）	髙山歯科医学院以来累計	東歯科専以来累計
髙山歯科医学院	1～5	1895年～1899年	53		
東京歯科医学院	6～13	1900年～1907年	180	233	
東京歯科医学専門学校（別科）	1～4	1908年～1911年	58	291	
東京歯科医学専門学校	14～57	1908年～1952年	6,013	6,304	
東京歯科大学	58～129	1953年～2024年	9,974	16,278	15,987

アクセスガイド



★市川キャンパス＆市川総合病院

〒272-8513
千葉県市川市菅野5-11-13
tel:047-322-0151(代表)

[JR総武線市川駅北口下車の場合]
●2番停留所より、京成バス「市川学園」行き（緑色表示）にて「市川総合病院」下車
●タクシーにて約10分(700～1000円程度)

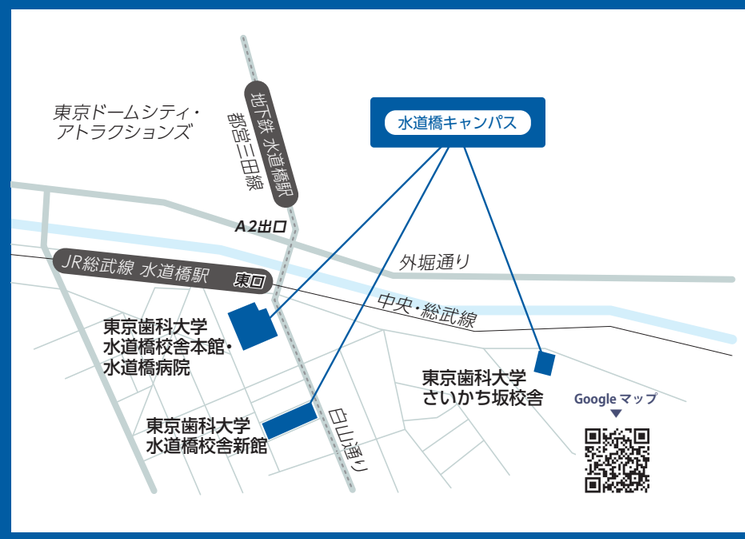
[京成電鉄市川真間駅下車の場合]
●改札口を出て左側の階段を降り直進し、京成バス「市川真間駅」停留所より「市川学園」行き（緑色表示）にて「市川総合病院」下車

★水道橋キャンパス＆水道橋病院

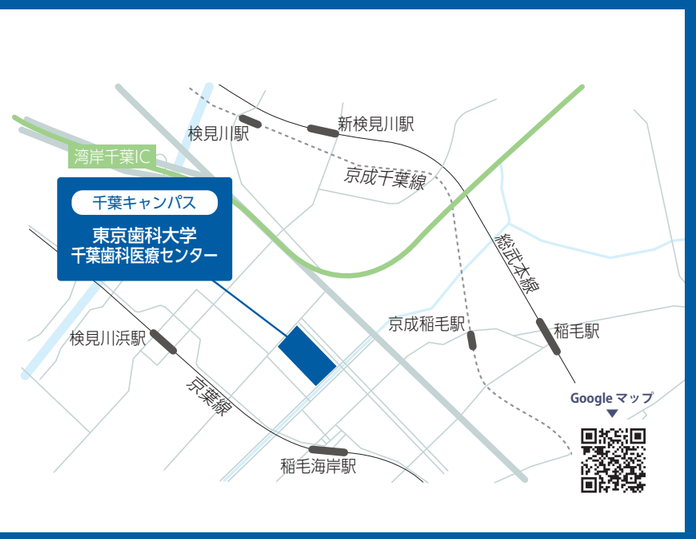
水道橋校舎本館
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-9-18
tel:03-6380-9001(代表)
tel:03-3262-3421(病院代表)
●JR総武線水道橋駅下車、東口改札口を出て右手すぐ
●都営地下鉄三田線水道橋駅下車、「A2」出口を出て、JR水道橋駅方面へ徒歩2分

水道橋校舎新館
〒101-0061
東京都千代田区神田三崎町2-1-14
tel:03-6380-9521(教務課)
●JR総武線水道橋駅下車、東口改札口を出て右へ徒歩2分
●都営地下鉄三田線水道橋駅下車、「A2」出口を出て、JR水道橋駅方面へ徒歩4分

さいかち坂校舎
〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-9-7
tel:03-6380-9300(代表)
●JR総武線・中央線御茶ノ水駅下車、御茶ノ水橋口より徒歩5分
●JR総武線水道橋駅下車、東口より徒歩5分



★千葉キャンパス＆千葉歯科医療センター



〒261-8502
千葉県千葉市美浜区真砂1-2-2
tel:043-270-3915(病院代表)

[JR稲毛駅西口下車の場合]
●千葉海浜交通バス(1番乗場)から「稲毛海岸駅行(歯科大経由)」にて「東京歯科大(正門)」下車

[JR稲毛海岸駅南口下車の場合]
●千葉海浜交通バス(4番乗場)から「稲毛駅行(歯科大経由)」にて「東京歯科大(正門)下車

[京成稲毛駅下車の場合]
●徒歩約15分